

ANNUAL REPORT

2022 – 2023

No. 46



Department of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

大学・大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学者から、修士（ビジネス）を取得するMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。
2017年	社会工学学位プログラム内に、地域未来創生教育コースが開設される。
2020年	社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラムが、新設の理工情報生命学術院・システム情報工学研究群の内部に位置付けられる。

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2022/6/30 現在)

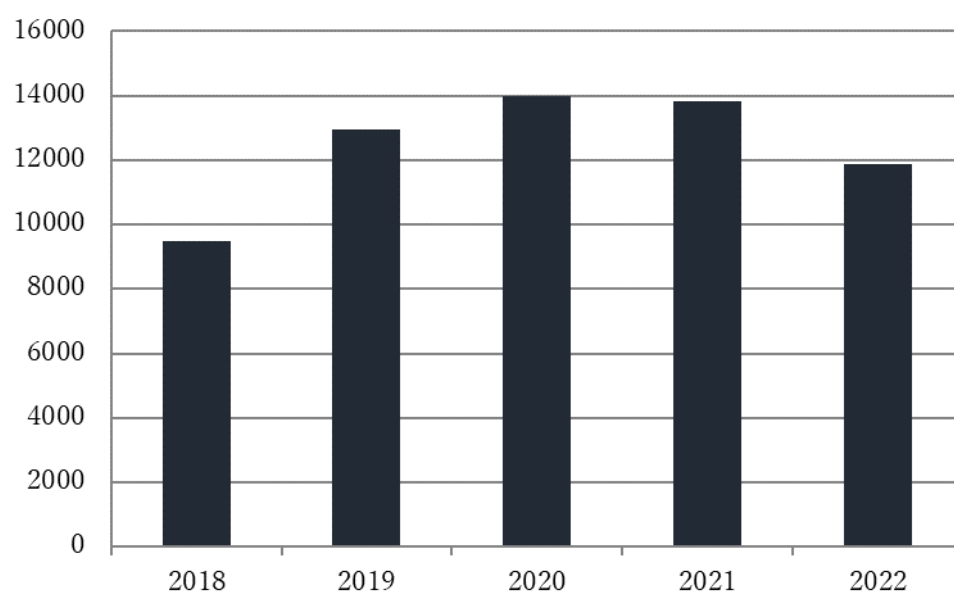
課題名(領域)	概要	代表者
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す.	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
都市のOR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹
経済実験・社会シミュレーション(複合系)	相互依存的意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。	秋山 英三

空間情報の社会的活用(複合系)	<p>地理情報はビッグデータの時代を迎えて、IoT 化の進展や ICT 技術により大量化・高度化しているが、近年重要性を増している情報技術の社会実装と政策展開の課題のなかで、有効かつ的確に活用する可能性が広がっているにも関わらず、いまだその活用は不十分である。本リサーチユニットは、未来社会の空間設計に向けて、地理情報ビッグデータの集約と活用方法の開発、そして、数理モデリング技法による空間意思決定方法への応用の研究を推進することを目的とする。この活動により、犯罪・災害などのリスクに対する安全研究、安全・効率的で環境負荷の少ない交通体系の研究、老朽化する都市基盤施設の維持更新や集約型のコンパクト・アンド・ネットワーク型の都市計画の研究等において、これまでの方法では見えてこなかった空間データを応用した意思決定の社会実装方法や、即効性の高い政策展開を支える社会的な仕組みを提示することができるようになることを目指す。</p>	鈴木 勉
-----------------	---	------

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員 (2022/6/30 現在)

課題名	概要	代表者
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を越えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループでは、環境経済学、都市環境計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究	我が国の信用調査会社の企業間取引データや位置などの各種の地理空間情報を活用することで、我が国の様々な産業について、これまで見ることの出来なかった事業所間取引やその階層構造、事業所立地の動向など、経済再生・地方創生・国土強靱化に資する産業・企業研究を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	デジタル・コンテンツ著作権保護やグループ検査技術の開発、通信のための符号や系列の性能解析や構成法、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPS タクシー配車歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発、顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析、省エネ型データセンターのモデル化と性能評価を行う。	繆 瑩
都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援や交通安全教育など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	谷口 綾子
地理情報の解析と視覚化	数理科学、都市計画、地理情報システムの専門家が計算幾何学、まちづくり、データマイニング、最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し、研究手法の社会への普及を図る。	大澤 義明
社会メカニズム工学	複雑な社会・経済・経営現象のメカニズムを工学的にモデル化、可視化、シミュレーションし、制度設計に活かす新たな学際研究分野を創出する。 ・キーワード: マーケット・デザイン、複雑ネットワーク解析、社会シミュレーション、可視化、マネジメント・サイエンス	秋山 英三

<p>マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用</p>	<p>本研究は、個人や家計の選好パラメータを推定する新たなマイクロ計量経済学的手法の開発とその応用、及び実証モデルの基礎となる経済理論モデルの構築を行うことを目的としている。</p>	<p>大久保 正勝</p>
<p>都市・地域の経営とデザイン</p>	<p>分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。</p>	<p>有田 智一</p>



科研費合計額（単位：万円、直接＋間接経費、代表者が社工教員）

II. 教員一覽

2023/6/1 現在

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション、行動実験	資産市場取引におけるバブル発生機構の研究、協力行動の進化の研究、力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
イリチュ(佐藤) 美佳	統計科学、多次元データ解析	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
大澤 義明	都市計画、地域科学	MaaS と都市計画、公共施設マネジメント、災害復興、住民投票の意義、税競争と調和、夜景、世界の研究学園都市、立地論
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	公共情報共有による問題解決、都市開発分野の国際協力
澤 亮治	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論	進化ゲーム理論を利用した社会慣習・社会制度・メカニズムの安定性分析
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	都市解析、立地科学、地理情報科学	計画数理、立地分析、施設配置計画、都市形態、公共サービス、公共交通計画、都市リスク管理、地理情報の応用
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスクコミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション、新技術の社会的受容
谷口 守	都市計画・交通計画・環境計画、保全型都市計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	空間計量経済学、空間統計学、地理情報科学、土木計画学	空間計量経済学、空間統計学、組成データ解析、不動産の価格・資料・空室率、産業立地、社会資本のストック推計、道路の維持管理、応用都市経済モデル

飛田 幹男		
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究
繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式	デジタル指紋符号・グループ検査方式・多元接続通信符号・分散ストレージシステム符号・プライバシー保護方式の構成及びアルゴリズムの開発
村上 暁信	都市計画、緑地計画、環境シミュレーション	ランドスケープ・プランニング、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、都市と農村の一体的整備、気候風土と景観
吉瀬 章子	数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	錐最適化問題に対するアルゴリズムの理論と応用、サービス工学における最適化モデルの構築
渡辺 俊	建築情報学、都市情報学、空間情報学、デザイン科学	ポスト定住化社会に関する研究、設計方法論に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	犯罪の空間統計学的分析と防犯まちづくりに関する研究、人口減少下における郊外の将来像に関する研究、環境の認知と評価・認知地図・回復環境・場所愛着・領域性など環境心理学研究全般、GIS/GPS/センシング技術を用いた人間行動や社会問題の解析
上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	個人の意思決定問題全般：後悔状況におけるメタ認知能力と適応的行動の関連性、環境保全行動、更生支援活動などの社会貢献・支援活動を促進・抑制する要因の分析、ギャンブル行動、サービス提供側と受け手側とのインタラクションに関する研究、慢性ストレスが生理・心理状態に及ぼす影響など
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知

浦田 淳司		
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
奥島 真一郎	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析	エネルギーと環境に関する脆弱性と貧困、モラルモチベーションと環境政策、環境とエネルギーに関する新たな指標の開発
Eom, Sunyong	都市解析、空間情報科学、都市計画	土地利用計画、都市のリスク管理、持続可能型都市構造、施設立地計画、ビッグデータを用いた都市の診断
甲斐田 直子	環境経済学、環境心理学	環境配慮行動・環境価値観・態度の分析、行動変容方略の検討、環境自然資源価値の経済評価
作道 真理	応用計量経済学	
佐野 幸恵	社会経済物理、ネットワーク科学、ウェブサイエンス、計算社会科学	社会現象の数理モデル、ソーシャルメディア分析、学術ネットワーク分析
高野 祐一	数理最適化、金融工学、機械学習	ポートフォリオ選択、統計的モデル選択、推薦システム、数理最適化技法（最適化モデル・アルゴリズム）の開発と応用
Stephen John, Turnbull,	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
Phung-Duc, Tuan	応用確率論、確率モデル、待ち行列理論、性能評価、オペレーションズ・リサーチ	サービス・社会・情報システムの確率モデルに関する研究
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論、組合せ論におけるトポロジー的手法
原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、建築規制・まちづくり法制、地区まちづくり、住環境整備	都市計画制度の活用効果と課題、地域独自のルール・仕組みづくり、地域住民等の発意を活かした地区まちづくり、既成・郊外住宅地や住宅団地の再生、地域資源を活用したまちづくり

松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市計画史
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究
和田 健太郎	交通工学、土木計画学	

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	生産システム工学、オペレーション管理、技術経営、コンピューターデバイス	QCDR モデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法、超受注生産システム、技術経営と地域活性化（経営管理 DMAIC-PDCA サイクルを念頭においた IoT・ビッグデータ解析と計画最適化の応用研究を含む）

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
阿武 秀和	理論経済学	ミクロ経済学、マーケットデザイン
牛島 光一	応用計量経済学、健康の経済学、教育の経済学	様々な政策や暴力紛争が人的資本（教育水準や健康）の蓄積に与える影響に関する実証研究
折原 正訓	企業金融・企業統治、税制、法と経済学	税制・法制度など公共政策と企業金融・企業統治との関係の実証分析
木下 陽平	測地学、気象学、リモートセンシング	
黒瀬 雄大	統計、計量経済学	ベイズ統計学、状態空間モデル
志田 洋平		

高橋 裕紀		
Tran Lam Anh, Duong	国際経済学、経済成長、所得分配	国際貿易が経済成長と富の分配に与える影響の分析
三崎 広海	統計学、計量経済学、計量ファイナンス	高頻度データ解析、資産価格の分散・共分散、金融リスク管理、状態空間モデル、粒子フィルタ

氏名	有田 智一	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任 地球規模課題学位プログラム 分担		
研究分野	都市・地域政策, 都市計画制度、産業集積		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 社会工学類：都市と地域の経営行政論、社会工学演習、都市計画マスタープラン策定演習、現代まちづくりの理論と実践、建築関連法規（世話人教員）、建築経済（世話人教員）
- ◆ 社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ・社会工学ファシリテーター（ULIワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦1（世話人教員）
- ◆ 地球規模課題学位プログラム：Seminars on Global Issues A-II
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 3名
 - 社会工学学位プログラム（博士前期） 8名
 - 社会工学学位プログラム（博士後期） 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・科学研究費補助金「オープンデータを踏まえた市民セクター主体のICT協働まちづくりに関する研究」（基盤研究(C)）（研究代表者）
 - ・「中古住宅市場における空き家・空き地の流通促進のための公民連携体制のあり方に関する研究」（奨学寄附金）（研究代表者）
 - ・基盤研究B「豪雨災害から避難弱者を守る共助的な避難行動計画づくりシステムに関する学際的研究」（研究分担者）
- ◆ 著書・論文等：
 - ・「建築法制の制度展開の検証と再構築への展望/技報堂出版/日本建築学会」
執筆担当箇所
第1章 建築法制の構成と意義/pp.2-7, 2022-10
第2章 近代建築法制100年の系譜と概説 2.2.7 建築審査会成立初期の課題
/pp.89-98, 2022-10

第2章 近代建築法制100年の系譜と概説 近代建築法制100年の系譜年表
/pp.28-49, 2022-10

第4章 4.2 市街地空間へのマネジメントへ向けて はじめに
/pp.254-256, 2022-10

第4章 4.2.2 現行土地利用規制システムの論点—個別審査型アプローチを視野に—
/pp.260-268, 2022-10

- ・杉田 光; 有田 智一「地方都市中心市街地における商店街の連続性を踏まえた空間整備の変遷と課題に関する研究」都市計画報告集/21(1)/pp.57-63, 2022-06-08

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系人事委員会委員

システム情報系運営委員会委員

免除等選考委員会委員

学術情報メディアセンター運営委員

地球規模課題学位プログラム運営委員会委員

筑波大学によるつくば市消防署跡地利用計画事業審査委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

理工学群社会工学類長

全学学群教育会議委員

理工学群運営委員会委員

理工学群入学者専攻委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価委員会委員

国土交通危険物の貯蔵に係る規制の合理化に関する検討会委員

東京都住宅政策審議会委員

東京都住宅政策審議会企画部会部会長代理

東京都江戸川区都市計画審議会委員

東京都練馬区都市計画審議会委員

東京都品川区居住支援協議会会長

川崎市建築等紛争調停委員会委員

埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
松戸市建築審査会委員
取手市国土交通省所管公共事業再評価委員会委員長
守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長
守谷市空家等対策協議会座長
土浦市建築審査会委員
古河市空き家等審議会委員長
桜川市市有財産跡地等利活用審議会会長
桜川市都市計画審議会委員
神栖市総合計画審議会委員
那珂市都市計画審議会会長
日本建築学会建築法制委員会委員
日本建築学会建築法制委員会人口減少時代のゾーニング検討小委員会委員
日本都市計画学会常務理事
日本都市計画学会学術委員会委員長
不動産学会論文著作賞選考委員会委員
都市住宅学会関東支部常議員
都市住宅学会学術委員会委員
都市住宅学会学会賞委員会委員
応用地域学会学術委員会委員
財団法人再開発コーディネーター協会試験実務経験審査委員会委員長
Journal:” Planning Theory and Practice (Royal Town Planning Institute),” Editorial
Board(Taylor & Francis)

氏 名	イリチュ（佐藤）美佳	職 名	教授
学位プログラム（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学, データマイニング, ソフトコンピューティング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学/統計学/卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 I/リスク・レジリエンス工学修士特別演習 II/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 I/リスク・レジリエンス工学修士特別研究 II/リスク・レジリエンス工学概論（分担）/リスク・レジリエンス工学グループ PBL 演習（分担）/社会工学修士特別演習 I /社会工学修士特別演習 II/社会工学修士特別研究 I/社会工学修士特別研究 II

大学院後期課程 リスク・レジリエンス工学博士 PBL 演習（分担）/ リスク・レジリエンス工学博士特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 6人/リスク・レジリエンス工学学位プログラム 4人/社会工学学位プログラム 4人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次計量による高次元小標本型ビックデータ解析とその社会的応用」(代表)

◆ 著書・論文等：

(1)M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Classifier for Extraction of Individualities from High Dimension Low Sample Size Data, Intelligent Decision Technologies, IOS press, Vol. 17, Issue. 1, pp. 127-138, 2023

(2)M. Sato-Ilic, Clustering-based Scaling for Healthcare Data (9章), Handbook on Artificial Intelligence-Empowered Applied Software Engineering, Vol. 2, Smart Software Applications in Cyber-Physical Systems, Springer, Switzerland, pp. 147-165, 2022

(3)M. Sato-Ilic, Advances in Fuzzy Clustering Used in Indicator for Individuality

- (4章), Advances in Selected Artificial Intelligence Areas - World Outstanding Women in Artificial Intelligence -, Springer, Switzerland, pp. 57-75, 2022
- (4) M. Sato-Ilic, Clustering and Multidimensional Scaling for Individual Difference Extraction, the 4th International Conference on Statistics: Theory and Applications, 162-1-162-8, 2022
- (5) Y. Toko, M. Sato-Ilic, T. Sasajima, Improvement of Model Construction based on Reliability Scores of Objects for Autocoding, Romanian Statistical Review, nr. 1, pp. 34-48, 2023
- (6) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Autocoding Methods for Family Income and Expenditure Surveys, Conference on New Techniques and Technologies for Official Statistics, pp. 404-408, 2023
- (7) S. Takamura, M. Sato-Ilic, Deep Learning Method for Imbalanced Image Data Considering Reduction of Dimensionality by Multidimensional Scaling, IASC-ARS Interim Conference 2022 - The Interplay between Statistical Computing and Artificial Intelligence, 45-46, 2022
- (8) Y. Yoko, M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Support Vector Machine for Autocoding and Interpretation of Results, IASC-ARS Interim Conference 2022 - The Interplay between Statistical Computing and Artificial Intelligence, 43-44, 2022
- (9) 高村昇二郎, 佐藤美佳, 多次元尺度法による計算効率を考慮したディープラーニング手法, 日本分類学会第41回大会, pp. 54-57, 2022
- (10) 加藤 優友, 佐藤 美佳, ファジィクラスタリングに基づくサポートベクターマシンを用いたがん種類の識別, 第38回ファジィシステムシンポジウム講演論文集, pp. 431-434, 2022
- (11) 本多 拓朗, 佐藤 美佳, クラスタ尺度に基づくデータ間差異の検出と市場データへの応用, 第38回ファジィシステムシンポジウム講演論文集, pp. 788-790, 2022

◆ 学会発表等 :

招待講演 :

- (1) M. Sato-Ilic, Individuality-based Fuzzy Cluster-Scaled Principal Component Analysis for High-Dimension Low-Sample Data, 15th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics and 16th International Conference on Computational and Financial Econometrics, 2022
- (2) M. Sato-Ilic, Cluster-based Analysis for Discrimination of Individuality, 2nd Global Summit and Expo on Robot Intelligence Technology and Applications, 2022
- (3) S. Takamura, M. Sato-Ilic, Deep Learning Method for Imbalanced Image Data Considering Reduction of Dimensionality by Multidimensional Scaling, IASC-ARS Interim Conference 2022 - The Interplay between Statistical Computing and

Artificial Intelligence, 2022

- (4) Y. Yoko, M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Support Vector Machine for Autocoding and Interpretation of Results, IASC-ARS Interim Conference 2022 – The Interplay between Statistical Computing and Artificial Intelligence, 2022

一般研究発表：

- (5) M. Sato-Ilic, Fuzzy Cluster-Scaled Principal Component Analysis for High-Dimension Low-Sample Data, The 24th International Conference on Computational Statistics, 2022
- (6) M. Sato-Ilic, Clustering and Multidimensional Scaling for Individual Difference Extraction, The 4th International Conference on Statistics: Theory and Applications, 2022
- (7) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering based Autocoding Methods for Family Income and Expenditure Surveys, Conference on New Techniques and Technologies for Official Statistics, 2023
- (8) Y. Toko, M. Sato-Ilic, Improvement of Model Construction based on Reliability Scores of Objects for Autocoding, The Annual Conference on the Use of R in Official Statistics (10th International Conference: uRos2022), 2022
- (9) 高村昇二郎, 佐藤美佳, 多次元尺度法による計算効率を考慮したディープラーニング手法, 日本分類学会第41回大会, 2022
- (10) 加藤 優友, 佐藤 美佳, ファジィクラスタリングに基づくサポートベクターマシンを用いたがん種類の識別, 第38回ファジィシステムシンポジウム, 2022
- (11) 本多 拓朗, 佐藤 美佳, クラスタ尺度に基づくデータ間差異の検出と市場データへの応用, 第38回ファジィシステムシンポジウム, 2022

3. 学内運営

- ◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献：
 - ・理工学群理工学群長特別補佐
 - ・全学入試実施委員
 - ・全学ハラスメント相談員
 - ・システム情報系コンプライアンス推進委員会委員
 - ・システム情報工学研究群コンプライアンス推進委員会委員
 - ・システム情報工学研究群企画室員
 - ・システム情報工学研究群早期修了プログラム実施委員会委員
- ◆ 学位プログラム・学群・学類組織の業務への貢献：
 - ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム達成度評価実施委員会委員長

- ・社会工学類運営委員会委員
- ・社会工学類入試実施委員会委員長
- ・社会工学類クラス担任（3年）

4. 学外の社会貢献

- ・独立行政法人 統計センター 特別参与
- ・公認会計士試験出題委員（内閣府任命・金融庁）
- ・第25期日本学術会議連携会員
- ・文部科学省統計エキスパート人材育成プロジェクト推進委員会委員
- ・文部科学省令和4年度データ関連人材育成プログラム委員会委員

海外業務：

- ・国際統計協会選出会員：International Statistical Institute Elected Member
- ・国際学術誌(英国出版)編集長：Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・国際統計協会女性委員会日本国代表：Country Representative for International Statistical Institute (ISI) Committee for Women in Statistics
- ・IEEE 計算知能学会ファジィシステム技術委員会副委員長：Vice Chair for Fuzzy Systems Technical Committee of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・Special Session Chair (特別セッション委員長), the IEEE World Congress on Computational Intelligence (WCCI) 2024
- ・Member of the 2022 IEEE CIS Fuzzy Systems Pioneer Award Sub-Committee
- ・Associate Editor of the IEEE Transaction on Fuzzy Systems (TFS), USA
- ・Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・Associate Editor of Fuzzy Sets and Systems, Elsevier, Netherlands
- ・Associate Editor of Japanese Journal of Statistics and Data Science, Japan
- ・Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- ・Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)
- ・Member of Editorial Board of Journal of Advances in Artificial Intelligence and Machine

Learning, SciVision Publishers LLC, United States

- IEEE Senior Member
- Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- Contribution for Pillars survey on European Commission

その他:

- 日本分類学会幹事（渉外担当）, 評議員
- 日本分類学会「データ分析の理論と応用」編集委員会委員
- 統計関連学会連合事業委員
- 種々の日本学術振興会科学研究費助成事業審査委員業務
- 学術論文の査読や国際会議座長等多数

氏名	大澤 義明	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、地域科学、社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市解析／都市計画マスタープラン実習／都市計画事例講義および実習／微積分 I

大学院：都市地域解析学

◆ 指導学生数：

社会工学専攻（前期）10人／社会工学専攻（後期）4人／社会工学類 0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1] デジタル時代の施設配置の理論－自己完結，個人情報保護，民主的決定による非効率性－. 基盤研究B, 研究代表者

[2] モビリティイノベーションの社会応用と未来社会工学研究(トヨタ自動車株式会社), 研究分担者

[3] 相続工学に関する共同研究(株式会社LeLien), 共同研究, 研究代表者

[4] デジタル・ガバメント/スマートシティ連携のフレームワークと教育プログラム研究(PWCコンサルティング合同会社), 共同研究, 研究代表者

[5] 令和4年度官学連携事業(つくばみらい市), 受託事業, 研究代表者

[6] 潮来市連携事業(潮来市), 受託事業, 研究代表者

[7] 夕日景観の優位性及び資源化検証と関連する地域公共財に関する研究(天塩町), 受託研究, 研究代表者

[8] 茨城版SDGsを推進する産学研究(関彰商事株式会社), 共同研究, 研究代表者

◆ 著書・論文等：

[1] 幸坂麻琴, 小林隆史, 大澤義明(2022): トワイライト景観の定量化－西天北地域の地域振興を見据えて－, *G I S－理論と応用*, 30(2), pp. 19-29

[2] 小林隆史, 堀隆一, 大澤義明(2022): ついで型施設投票モデル－民意と最適の施設配置齟齬に着目して－, *都市計画論文集*, 57(3), pp. 1018-1024.

- [3]田宮圭祐, 川辺怜, 鈴木勉, 大澤義明(2022): 平成の大合併における自治体隣接関係の変化と遠隔型連携の可能性, *都市計画論文集*, 57(3), pp. 1484-1490.
- [4]西村詩央里, 大澤義明(2023): バス便はなぜ高頻度となるのかーバス利用者機会費用に着目した解析的研究ー, *応用地域学研究*, 26, pp. 22-32.
- [5]欧陽君顔, 石井儀光, 大澤義明(2023): 同心円都市人口密度と非一様都市施設密度ー, *応用地域学研究*, 26, pp. 33-41.
- [6]堀越卓, 一井直人, 小又暉広, 下津大輔, 大澤義明(2023): 自治体またぎ情報を組み込んだ医療サービス指標, *実践政策学*, 9(1), pp. 27-35.

◆ 学会発表等:

- [1]大澤義明(2022): 産学連携による相続工学研究. *住宅土地経済*, 125, 2022summer, pp. 2-7.
- [2]楊佳樂, 大澤義明(2022): 遺産相続の国際間比較ー相続法と相続税を中心にー, *日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)*, pp. 361-362.
- [3]欧陽君顔, 鈴木勉, 大澤義明(2022): 電柱沿道密度の地域別道路種別比較. *ホ°レーションズ・リサーチ学会2022年秋季研究発表会アブストラクト集*, pp. 14-15.
- [4]任伊哈, 小林隆史, 石井儀光, 大澤義明(2022): 水面借景の変化を立体角で数値化する. *ホ°レーションズ・リサーチ学会2022年秋季研究発表会アブストラクト集*, pp. 170-171.
- [5]阿部くらん, 藤巻米隆, 小西弘樹, 宇佐美朋香, 大澤義明(2022): 相続は地方をいかに衰退させているのかー不動産に着眼してー. *ホ°レーションズ・リサーチ学会2022年秋季研究発表会アブストラクト集*, pp. 174-175.
- [6]阿部孝太郎, 小林隆史, 大澤義明(2022): デジタル時代における消防団施設の意義ー茨城県行方市を対象にー, *計画行政学会第45回全国大会*, pp. 137-140.
- [7]石塚隆幸, 石井儀光, 大澤義明(2022): スマートIC開通が首都近郊農地活性化へ及ぼす影響ー茨城県つくばみらい市を対象にー, *計画行政学会第45回全国大会*, pp. 49-52.
- [8]川辺怜, 大澤義明(2022): 水道料金の自治体間データ比較, *計画行政学会第45回全国大会*, pp. 107-110.
- [9]一井直人, 大澤義明(2022): インフラ維持管理から見た自治体またぎ人流の分析, *計画行政学会第45回全国大会*, pp. 45-48.
- [10]川辺怜, 大澤義明(2023): 上水道の持続可能な管路更新期に関する分析. *ホ°レーションズ・リサーチ学会2023年春季研究発表会アブストラクト集*, pp. 152-153.
- [11]一井直人, 大澤義明(2023): 道路利用者と道路管理者との齟齬ー人流データを用いた分析ー. *ホ°レーションズ・リサーチ学会2023年春季研究発表会アブストラクト集*, pp. 154-155.
- [12]松原千波, 鮭川矩義, 大澤義明(2023): 生活圏と世代を意識した選挙区割り. *ホ°レーションズ・リサーチ学会2023年春季研究発表会アブストラクト集*, pp. 242-243.

◆ その他：

[1]第21回社工都市計画同窓会・修士論文優秀賞：一井直人「人流データによる自治体経営政策分析」（2023/2/11）

[2]第21回社工都市計画同窓会・修士論文優秀賞：川辺怜「持続可能な水道事業を見据えた管路配置と水道課金の分析」（2023/2/11）

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会学関連就職委員会委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

[1]日本都市計画学会・会長アドバイザー（日本都市計画学会）

◆ 自治体等：

[1]つくば市建築審査会・会長（つくば市）

[2]つくば市ホテル等建築建築審議会・会長（つくば市）

[3]水戸市都市景観審議会・会長（水戸市）

[4]水戸市都市景観専門委員会・委員（水戸市）

[5]鹿嶋市洋上風力発電事業推進ビジョン策定委員会・委員長（鹿嶋市）

[6]つくばみらい市総合計画審議会・会長（つくばみらい市）

[7]ひたちなか市スポーツ推進審議会・委員長（ひたちなか市）

[8]中川育英会・評議員（公益財団法人中川育英会）

[9]茨城県立土浦第一高等学校・評議員（茨城県教育委員会）

[10]学校法人茗溪学園・評議員（学校法人茗溪学園）

[11]つちうら MaaS(土浦市新モビリティサービス)推進協議会・委員(関東鉄道株式会社)

[12]稲敷市持続可能な地域づくりプラン策定委員会・委員長（稲敷市，2022年）

[13]茨城県立潮来高等学校・学校運営協議会委員（潮来高等学校，2022年）

[14]つくば市におけるインターネット投票に係る調査実証事業・座長代理（内閣府，2022年－2023年）

[15]常陸太田市エネルギー構造高度化・転換理解促進事業検討委員会・委員長（常陸太田市，2022年－2023年）

[16]第3次つくば市都市計画マスタープラン・第2次つくば市立地適正化計画策定委員会・委員長（つくば市，2022年－現在）

[17]常総市都市計画マスタープラン策定委員会・委員長（常総市，2022年－現在）

[18]阿見町都市計画審議会・会長（阿見町，2022年－現在）

◆ 高大連携まちづくりワークショップ事業：

[1]天塩高等学校（2022年8月）

[2]つくば秀英高等学校（2022年8月）

[3]潮来高等学校（2022年9月）

氏名	岡田 幸彦	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任 スポーツウエルネス学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ビジネスインテリジェンス、会計情報科学、サービス工学、ソーシャル・データサイエンス		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - ・学類：会計と経営/経営学/マネジメント演習
 - ・大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/技術経営（サービス工学学位プログラム）/ブロックチェーン技術と地域未来創成（社会工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講1（スポーツウエルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講2（スポーツウエルネス学位プログラム）
- ◆ 指導学生数：
 - ・社会工学類 6人/サービス工学学位プログラム（修士）16人/社会工学学位プログラム（修士）1人/社会工学学位プログラム（博士）3人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・筑波大学人工知能科学センター 人工知能基盤研究部門 サービス工学分野長
 - ・統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター 客員准教授
 - ・放送大学 客員准教授「サービスサイエンス」
 - ・NEDO 委託事業「データコラボレーション解析による生産性向上を目指した次世代人工知能技術の研究開発」（中核研究者）
 - ・科研費基盤B アカウンティング・インフォマティクス（会計情報科学）の基盤研究
- ◆ 主な著書・論文等：著書1件、ジャーナル査読論文6件、国際会議査読論文4件
 1. サービスサイエンス, 岡田 幸彦; 原 辰徳, 放送大学教育振興会, 2023-03
 2. Effect of a Salesperson Avatar Automatically Mimicking Head Nodding on Customer Enjoyment of Conversation in a Virtual Environment, Wakabayashi Takumi; Okada Yukihiro; Zempo Keiichi, Proceedings of the Augmented Humans 2023 (Posters)/pp.334-337, 2023-03 査読有
 3. Rapport Building via a Digital Avatar with a "Voice" Entering into a Customer's

- Personal Space, Yamazaki Azusa; Wakatsuki Naoto; Mizutani Koichi; Okada Yukihiro et al., Proceedings of the Augmented Humans 2023 (Posters)/pp.294-297, 2023-03 査読有
4. Practical Application of Drive-By Monitoring Technology to Road Roughness Estimation Using Buses in Service, Yamamoto Kyosuke; Shin Ryota; Sakunma Katsuki; Ono Masaaki; Okada Yukihiro, Sensors/23(4), 2023-02 査読有
 5. Discussion on a Vehicle–Bridge Interaction System Identification in a Field Test, Shin Ryota; Okada Yukihiro; Yamamoto Kyosuke, Sensors/23(1), 2023-01 査読有
 6. Predictive model of frailty onset using Bayesian network., Kawai Yujiro; Sakurai Eiichi; Sugawara Yuki; Okada Yukihiro et al., IEEE International Conference on Big Data (Big Data)/pp.2017-2023, 2023-01 査読有
 7. A two-phase model of collective memory decay with a dynamical switching point, Igarashi Naoki; Okada Yukihiro; Sayama Hiroki; Sano Yuki, Scientific Reports/12, 2022-12 査読有
 8. Mouth-in-the-door: The effect of a sound image of an avatar intruding on personal space that deviates in position from the visual image, Zempo Keiichi; Yamazaki Azusa; Wakatsuki Naoto; Mizutani Koichi; Okada Yukihiro, IEEE ACCESS/10 /pp.125772-125791, 2022-11 査読有
 9. Impact on the quality of interpersonal relationships by proximity using the ventriloquism effect in a virtual environment, Yamazaki Azusa; Wakatsuki Naoto; Mizutani Koichi; Okada Yukihiro et al., Companion Proceedings of the 2022 Conference on Interactive Surfaces and Spaces (ISS '22)/pp.22-26, 2022-10 査読有
 10. 業績管理会計は利益率の水準と統制に影響を与えるか？—中小企業を対象とした疑似実験—, 尻無濱芳崇; 地多佑介; 岡田 幸彦, 会計プロGRESS, 2022-09 査読有
 11. Application of C-LSTM Networks to Automatic Labelling of Vehicle Dynamic Response Data for Bridges, Shin Ryota; Yamamoto Kyosuke; Okada Yukihiro, Sensors/22(9)/pp.3486-3497, 2022-05 査読有

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
教育イニシアティブ機構会議 構成員
教学マネジメント室 室員
理工学群広報委員会 委員
人工知能科学センター運営委員会 委員
筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類広報委員会 委員長
大学院社会工学専攻広報委員会 委員長
教学マネジメント委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- ・公益財団法人清国奨学会 理事（工学系学生への奨学事業、非常勤、無報酬）
- ・水戸信用金庫 理事（非常勤、報酬有、月 10.8 万円（旅費等込））
- ・日本サービス大賞 選考専門委員
- ・サービス学会 理事

氏名	繁野麻衣子	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化, ネットワーク理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／情報リテラシー（演習）／社会と最適化／フレッシュマンセミナー

大学院 応用最適化／離散数理/地域未来創生概論

◆ 指導学生数：

社会工学類 6人

社会工学学位プログラム(後期) 4人

社会工学学位プログラム(前期) 15人 サービス工学学位プログラム 7人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実用性に向けた説明力のある手法開発」(代表)

科学研究費 基盤研究 (B) 「雖最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B) 「デジタル時代の施設配置の理論－自己完結, 個人情報保護, 民主的決定による非効率性－」(分担)

共同研究(経費無し) 産業総合研究所「リソース最適化に関する研究」

共同研究 株式会社 READ 「情報基盤確立」及び「人事システム」推進に対する研究」

共同研究 株式会社サイゼリヤ 「外食産業における DX に向けた取り組み」

◆ 著書・論文等：

F. Xue, H. Ma, M. Shigeno, Home away table classification and carry-over effect values minimization under restricted breaks for round-robin tournament, Journal of Advanced Mechanical Design, Systems, and Manufacturing, 16 (4) JAMDSM0040, (2022)

J. Wang, S. Chen, Q. Wu, Y. Tan, and M. Shigeno. Solving the static resource-allocation problem in SDM-EONs via a node-type ILP model, *Sensors* 22 (24) 9710, (2022)

H. Hashikami, R. Kobayashi, Y. Li, Y. Nakano, and M. Shigeno, Safe route carpooling to avoid accident locations and small scale proof of concept in Japan, *IEEE Transactions on Systems, Man and Cybernetics: Systems*, 53 (7), 4239-4250, (2023).

◆ 学会発表等:

J. Brinton, S. Oki, X. Yang, and M. Shigeno, Height estimation for abrasive grain of synthetic diamonds on microscope images by conditional adversarial networks, IEA/AIE 2022, 2022年7月 (Advances and Trends in Artificial Intelligence. Theory and Practices in Artificial Intelligence, 797-804)

Y. Tan, Y. Nakano, J. Wang and M. Shigeno. Designing of OTN/WDM networks with recovery methods for multiple failures. 2022 27th OptoElectronics and Communications Conference (OECC) and 2022 International Conference on Photonics in Switching and Computing (PSC), 2022年7月

小林 凌太朗, 橋上 英宜, Li Yu, 繁野 麻衣子, 欠勤者を考慮した通勤カープールモデルの提案, スケジューリング・シンポジウム 2022, 2022年9月

X. Yang, T. Tsuboi, K. Kimura, K. Hangai, and M. Shigeno, Restaurant sales forecasting with feature interaction-learning mechanism based neural network model, IEEE International Conference on Big Data, 2022年12月

小林 凌太朗, 橋上 英宜, Li Yu, 繁野 麻衣子, キャンセルを考慮した通勤カープールモデルの比較, 情報処理学会研究部会数理モデル化と問題解決, 2023年3月

三井駿輝, 繁野麻衣子, 総当りリーグ戦における carry-over effect 値最小化の検討, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2023年3月

夏井慧, 繁野麻衣子, 2部グラフ上のポピュラーマッチングの最大数, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会, 2023年3月

◆ その他:

なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学学群教育課程委員，系戦略室
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
大学院 地域未来創生教育コース／学類 カリキュラム委員・マッチング委員・クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
数理モデル高大連携
スケジューリング学会理事
高崎女子高等学校出張講義

氏名	鈴木 勉	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担)		
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム (専任), 社会工学学位プログラム (分担), サービス工学学位プログラム (分担)		
担当学類	社会工学類, 地球規模課題学位プログラム (学士) (分担)		
研究分野	立地科学, 都市空間構造, 持続可能型都市形態, 都市リスク分析, 地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
 - 理工学群 数学リテラシー 1
 - 社会工学類 線形代数 1 / 都市数理 / 都市計画演習 / 都市解析
 - 地球規模課題 Seminars on Global Issues A-I/A-II
 - 学位 P (学士) Practical Training on Global Issues A-I/A-II
 - 博士前期課程 リスク・レジリエンス工学概論 / 都市・地域解析学 / 地域データ解析 / レジリエント都市計画演習
- ◆ 指導学生数 :
 - 社会工学類 2 人 / リスク・レジリエンス工学学位 P 2 人 / リスク工学専攻 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
 - 日本学術振興会科学研究費 (基盤研究(B)) 「水害時の住民避難をより安全にする広域避難対策の社会的実装を図る計画技術の構築」 (分担)
 - 日本学術振興会科学研究費 (基盤研究(B)) 「デジタル時代の施設配置の理論—自己完結, 個人情報保護, 民主的決定による非効率性—」 (分担)
 - 東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「都市の拠点集約と拠点間ネットワークの空間分析」
 - トヨタ自動車共同研究 「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」 (分担)
 - 関東鉄道株式会社 共同研究 「つちうら MaaS 実証実験に関する研究」 (分担)
- ◆ 著書・論文等 :
 - Sunyong Eom, Michitaka Umemoto and Tsutomu Suzuki: Cross-border evacuation and intermunicipal cooperation during large-scale flood disasters, International Journal of Disaster Risk Reduction, Vol.79, 2022. DOI: 10.1016/j.ijdr.2022.103159
 - 榎本俊祐・巖先鏞・鈴木勉: 人口密度分布に対応した都市拠点と公共交通路線の同時最適

配置モデル分析, 都市計画論文集, Vol.57, No.2, pp.337-344, 2022.

田宮圭祐・川辺怜・鈴木勉・大澤義明:平成の大合併における自治体隣接関係の変化と遠隔型連携の可能性, 都市計画論文集, Vol.57, No.3, pp.1484-1490, 2022.

佐野雅人・巖先鏞・鈴木勉:越境施設利用からみた隣接自治体依存構造の空間分析, 都市計画論文集, Vol.57, No.3, pp.1453-1460, 2022.

◆ 学会発表等:

Liling Liu and Tsutomu Suzuki: Assessing allocation of road space for bicycles and cars using microscopic simulation, 都市の OR サマーセミナー2022, 筑波大学, 2022年9月2日(オンライン).

朱黙儒・鈴木勉:外来通院における在宅診療・オンライン診療の導入効果, 都市の OR サマーセミナー2022, 筑波大学, 2022年9月2日(オンライン).

欧陽君顔・大澤義明・鈴木勉:電柱沿道密度の地域別道路種別比較, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, 2022.

欧陽君顔・大澤義明・鈴木勉:沿道電柱密度の地域別・道路種別比較, 地理情報システム学会講演論文集, 2022.

一井直人・鈴木勉・大澤義明:人口重心に着目した人流分析, 地理情報システム学会講演論文集, 2022.

朱黙儒・鈴木勉・巖先鏞:訪問・オンライン診療の導入効果の計測, 都市の OR ワークショップ 2022, 名古屋オフィスパーク名駅プレミアホール, 2022年12月17-18日.

北口立大・長谷川大輔・巖先鏞・鈴木勉・鈴木裕太:常総市デマンド乗合交通の利用パターンの長期的変化, 都市の OR ワークショップ 2022, 名古屋オフィスパーク名駅プレミアホール, 2022年12月17-18日.

◆ その他:

3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:

地球規模課題学位プログラム(学士)運営委員会委員

地球規模課題学位プログラム(学士)カリキュラム委員会委員

◆ 学位プログラム組織の業務への貢献(委員会等):

リスク・レジリエンス工学学位プログラムカリキュラム委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

応用地域学会応用地域学研究編集委員

日本都市計画学会学術委員会委員

茨城県都市間高速バス増便実証実験協議会会長

常総市公共交通活性化協議会会長

神栖市地域公共交通会議委員

筑西市地域公共交通会議委員

板東市地域公共交通会議委員

八千代町地域公共交通会議委員

鉾田市地域公共交通会議委員

つちうら MaaS（土浦市新モビリティサービス）推進協議会委員

氏名	谷口綾子	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学 社会工学	専任 兼任	
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学 社会工学	専任 兼任	
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市交通計画, 態度行動変容研究, リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画演習, 都市計画インターンシップ, 交通計画, 都市計画入門, 情報リテラシー演習, BPGI 地球規模課題発見, TSUKUBA ポスト・コロナ学

【大学院前期課程】リスク・コミュニケーション, レジリエント都市計画実習, リスク/レジリエンス工学グループ PBL 演習, リスク工学特別演習, リスク工学基礎, リスクマネジメント序論,

◆ 指導学生数：リスク・レジリエンス学位 P6 名, 社会工学学位 P_D1 名, M3 名, 社会工学類 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費(挑戦的開拓)(代表) 「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容の包括的理解に向けた学際研究
2. 科学技術振興機構 社会技術研究開発 RISTEX, 技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI)への包括的実線研究開発プログラム, 「ELSI を踏まえた自動運転技術の現場に即した社会実装手法の構築」(分担代表)
3. 日本損害保険協会 自賠償運用益抛出事業研究助成金(代表) 「高齢運転者向け認知機能検査の負の効用とその緩和策の検討」

◆ 著書・論文等：

■ 査読付き原著論文

- (1) 溝口哲平, 谷口綾子：「移動中の活動の主観的意味」と移動時間短縮意向との関連に関する基礎分析, 土木学会論文集 D3, 79 巻, 3 号, 論文 ID: 22-00081, 2023. DOI <https://doi.org/10.2208/jscej.22-00081>
- (2) 森隆慶, 荒木雅弘, パラディ・ジアンカルロス, 高見淳史, 谷口綾子：新型コロナウイルス蔓延下での個人の外出自粛行動に対する社会的影響に関する研究—モバイル空間統計を活用して—, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), 78 巻 5 号, pp.I_515-I_528,

2023. DOI https://doi.org/10.2208/jscejipm.78.5_I_515

- (3) 渡邊芳樹, 谷口綾子, 張詠皓: 高齢ドライバー向け認知機能検査の結果通知書におけるメタメッセージ緩和策の効果に関する研究, 交通工学論文集, 第9巻第3号, pp.24-36, 2023. https://doi.org/10.14954/jste.9.3_24
- (4) Ayako TANIGUCHI, Marcus ENOCH, Athanasios THEOFILATOS, Petros IEROMONACHOU (2022) Understanding acceptance of Autonomous Vehicles in Japan, UK, and Germany, Urban, Planning and Transport Research (Taylor & Francis). <https://doi.org/10.1080/21650020.2022.2135590>
- (5) 奥井良子, 白水真理子, 安藤里恵, 間瀬由記, 中原慎二, 谷口綾子: 健康教育イベントへの参加が身体活動および健康関連 QOL に与える影響, 日本看護科学会誌, JANS-21-193.R1 日本看護科学会誌, 第42巻, pp. 81-90, 2022.

■査読付きプロシーディングス (なし)

■著書:

- (1) モビリティ・イノベーションの社会的受容 技術から人へ, 人から技術へ, 上出寛子編著, 2章「自動運転システムの社会的受容」担当, コロナ社, 2022年4月. ISBN:9784762831850
- (2) ポスト・コロナ学 ーパンデミックと社会の変化・連続性、そして未来, 秋山肇編, 8章「蔓延初期の日本・英国・ドイツ市民の行動変容」担当, 明石書店, 2022年4月. ISBN 9784750353746

◆ 学会発表等:

- (1) 谷口綾子, 飯塚友也, 溝口哲平, 岩田剛弥: 自動運転車普及過渡期における手動運転車の交通ルール違反对策に向けた意識分析, 第66回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.
- (2) 飯塚友也, 岩田剛弥, 溝口哲平, 谷口綾子: 自動運転車の「事故回避を企図した交通ルール違反」に対する一般市民と専門家の評価, 第66回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.
- (3) 後藤りえ, 谷口綾子, 樋崎恵一, 本間雄太: 海外都市の専門家が懸念する電動キックボードシェアリング導入・運用の課題と助言, 第66回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.
- (4) 小菅英恵, 谷口綾子, 佐々木邦明: 運転免許返納者と更新者の生活・運転・事故の意識に関する調査研究: 茨城県の高齢者を対象として, 第66回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.
- (5) 渡邊芳樹, 谷口綾子, 張詠皓: 高齢ドライバー向け認知機能検査の結果通知書におけ

るメタメッセージ受取の規定因とその緩和策の効果分析, 第 66 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.

(6) 岩田剛弥, 谷口綾子, 溝口哲平: 自動運転バスの利用意向の要因分析 —乗務員有無・乗務員の保有免許に着目して—, 第 65 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.

(7) 溝口哲平, 谷口綾子: 「移動中の活動の主観的意味」の出現パターンと活動種類の関係, 第 65 回土木計画学研究・講演集(CD-ROM), 2022.

◆ その他:(論説)

(1)産経新聞 シンポジウム 過去と未来の首都圏道路ネットワークと道路の機能強化: つながりながら人々の生活に寄り添う道路ネットワークは新時代へ: パネリスト, 2023 年 3 月 10 日産経新聞朝刊 10 面.

(2)運輸と経済 特集: こどもと交通 座談会「こどもと交通の未来を考える」登壇者, 運輸と経済 2023 年 3 月号.

(3)運輸と経済 特集: こどもと交通 「運輸と経済フォーラム 公共交通の未来を育む—交通事業者「こども」戦略」パネリスト, 運輸と経済 2023 年 3 月号.

(4)後藤りえ, 谷口綾子, 樋崎恵一, 中嶋一雄: 電動キックボードシェアリング導入・運用に対する海外都市専門家の評価と課題, 交通工学(機関誌), Vol.58, No.2, pp.41-44, 2023.

(5)谷口綾子: 新たなモビリティの社会的受容と留意点 —自動運転システムと電動キックボード, 北の交差点(一般財団法人 北海道道路管理技術センター), 特集_新しいモビリティ_基調レポート, vol.40, pp2-7, 2022. <http://rmec.or.jp/activity/back-number/>

(6)浅見知秀, 鳥海佑介, 谷口綾子: 地方都市でタクシーはバスを補完することができるか? ~市内バス全線定期券保有者へのタクシー初乗無料券配布実験の実証分析~, 交通工学第 57 巻 2 号(2022 年 4 月号)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

全学リスク管理室 新型コロナウイルス感染症リスク対応チーム

キャンパス交通システムの利用促進

筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入, マネジメントと利用促進

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

リスク・レジリエンス工学学位 P 予算委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 講演・パネルディスカッション

(1) JICA 研修会 都市交通総合 講師「Mobility Management: essence and key points」

2023年2月9日

- (2) JICA 研修会 都市鉄道 講師「Mobility Management: essence and key points」, 交通すごろくの実施, コーディネート, 2023年1月30日
- (3) 宇都宮市3229(身につく)勉強会 講師「モビリティ・マネジメントのココローモビリティ・マネジメントによる市民の態度・行動変容に向けた政策立案への示唆」2022年12月20日
- (4) リスク・レジリエンス・コンソーシアム ピッチ会 話題提供「モビリティ・マネジメントー態度・行動変容のための説得的コミュニケーション技術の都市交通問題への応用」 2022年11月9日
- (5) 国土交通大学校 道路計画(機能・活用) 講師 「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2022年11月2日
- (6) 東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構 高校生対象:自動運転バス試乗会+研究環境見学+公園・ワークショップ 自動運転バスから,未来の柏はどう見える? 講師「「今の自分」と「みんなの将来」:交通すごろくで社会問題を考える」2022年10月30日
- (7) 交通事故総合分析センター(イタルダ)研究発表会 基調講演「「自動化するクルマ」の社会的受容」2022年10月21日
- (8) 国土交通省 九州地方整備局 都市交通計画全国会議 基調講演「モビリティ・マネジメントのココロ」 2022年10月18日
- (9) 交通エコロジーモビリティ財団 第10回 地域の交通環境対策推進者養成研修会(愛媛県松山市) 講師 2022年9月28日~30日
- (10) 地域公共交通総合研究所 地域モビリティの再構築シンポジウム 話題提供「日本のインフラ体力診断 地域公共交通WG」 2022年9月2日
- (11) 日本心理学会 会員公募シンポジウム [SS-023]人生100年時代の車の運転 ~多くの人々の幸福な交通社会を目指して, 話題提供「高齢ドライバーの免許保有・返納行動と意識との関連分析-主観的健康観・幸福感に着目して-」2022年9月-10月公開.
- (12) 自動運転倫理ガイドライン研究会 第1回シンポジウム 自動運転×倫理 公開シンポジウム:パネリスト「「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容ーこれまでの研究成果からの示唆」 2022年6月17日
- (13) 土木計画学 革新的技術の合意形成小委員会 話題提供「「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容」 2022年5月20日
- (14) 国土交通省 関東運輸局 公共交通シンポジウム 2022 ウィズコロナ時代における公共交通の姿~感染防止対策とお出かけ促進に向けた新しいスタイルの模索~ 基調講演 「モビリティ・マネジメントのココロ」, パネルディスカッションのモデレーター, 2022年4月25日
- (15) JCoMaaS トークイベント MaaSの部屋 講師 「「クルマ」と「自動化するクルマ」に対する社会的受容」, 2022年4月13日
- (16) 東京大学 東大まちづくり大学院イブニングセミナー 健康な都市をデザインする

講師 「まち・交通行動と健康：いくつかのエビデンス紹介」, 2022年4月11日

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- (1) 首都高速道路株式会社_事業評価監視委員会 委員 2023年2月～
- (2) 国土交通省 道路局_次世代のITS 検討会 委員 2023年2月～
- (3) 国土交通省 鉄道局_鉄道利用における混雑回避のあり方に関する検討会 委員
2022年12月～
- (4) 国土交通省 関東地方整備局 社会資本整備審議会 道路分科会関東地方小委員会
委員 2022年～
- (5) 内閣府_重要土地等調査法_土地等利用状況審議会 2022年6月～
- (6) 埼玉県庁 国土利用計画審議会 委員 2022年6月～
- (7) 国土交通省 交通政策審議会 陸上交通分科会鉄道部会 鉄道運賃・料金制度のあり
方に関する小委員会 委員 2022年2月～
- (8) 目黒区役所都市計画審議会都市計画マスタープラン検討委員会 委員 2021年8月～
- (9) 東京都庁 臨海部 地域公共交通会議 委員 2021年8月～
- (10) 日本学術会議 課題別委員会「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デ
ザイン検討委員会 自動運転企画分科会 自動運転と共創する未来社会検討小委員
会」(25期) 委員 2021年7月～
- (11) 国土交通省 関東地方整備局 首都圏道路ネットワークの整備効果検討会 2020年
12月～
- (12) 運輸総合研究所 評議員 2020年7月～
- (13) 守谷市 地域公共交通活性化協議会 委員 2020年4月～
- (14) 国土交通省 社会資本整備審議会 本委員 2020年3月～
- (15) 国土交通省 社会資本整備審議会 環境部会 委員 2020年3月～
- (16) 国土交通省 社会資本整備審議会 計画部会 委員 2020年3月～
- (17) 国土交通省 社会資本整備審議会 道路分科会 委員 2020年3月～
- (18) 国土交通省 社会資本整備審議会 技術部会 委員 2020年3月～
- (19) 藤沢市都市計画審議会 委員 2019年8月～
- (20) 国土交通省 青森国道事務所・青森県庁 奥入瀬溪流・十和田湖周辺交通マネジメン
ト検討委員会 委員 2017年12月～
- (21) 国土交通省総合政策局 エコ通勤等承認・普及促進委員会 委員 2017年8月～
- (22) 防衛省 防衛施設整備に関する有識者会議委員 2017年4月～
- (23) 国土交通省関東地方整備局 社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会 臨
時委員 2016年11月～
- (24) 国土交通省 国立研究開発法人審議会土木研究所部会 委員 2015年7月～

- (25) 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員
2014年9月～
- (26) 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員
2014年6月～
- (27) 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012年1月～2022年3月
- (28) 静岡県 道路技術審議会 委員 2012年10月～
- (29) 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会
委員 2009年1月～
- (30) 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008年10月～
- (31) 交通エコロジー・モビリティ財団 EST普及推進委員会 委員 2005年～

以上

氏名	谷口 守	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市地域計画、交通計画、環境計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市計画演習／都市計画原論／地球規模課題基礎演習A－II

大学院前期課程 都市と環境／公共インフラ計画／美しい国土づくりへの挑戦（I）、（II）
／モビリティ・イノベーションの社会応用／地域未来創生概論

◆ 指導学生数：

社会工学類 5人／社会工学専攻（博士後期）4人／社会工学専攻（博士前期）9人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「バイオミメティックスに学ぶスマートな都市退化
マネジメント」(代表)

科学研究費 挑戦的研究 (萌芽)「インビジブルシティ (見えない都市) の
エモーショナルな『見える化』まちづくり」(代表)

科学研究費 新学術領域研究「西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究」
(分担)

共同研究 トヨタ自動車 (株)「モビリティ・イノベーションの社会応用と
未来社会工学研究 フェーズV」(分担)

寄付金 (公財)住友財団「コンパクトシティ政策の棚卸し集大成評価と
そのDX時代への新展開」(代表)

寄付金 (一財)日本国土開発未来研究財団「相反する『分散』『コンパクト』概念を
最適融合する新たな都市・国土構造の提案」(代表)

リサーチユニット強化事業 「コンパクトシティ」(代表)

◆ 著書・論文等：

◆ 著書：

谷口守：第3章、快適な住まいやまちづくりのヒントとなる生き物、下村政嗣・谷口守・

針山孝彦・平坂雅男・穂積篤：地球を救うスーパーヒーロー生き物図鑑、pp.68-91、X-Knowledge、2022.10.

Mamoru Taniguchi: Urban Planning by Learning from Living Creatures, Ed.by Akihiro Miyauchi and Masatsugu Shimomura: Biomimetics, Connecting Ecology and Engineering by Informatics, pp.91-104, Jenny Stanfor Publishing, 2023.1.

谷口守：交通サービスを立て直す、－認知症の人も含む利用者目線のユニバーサルデザイナー、今中雄一編、認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック、pp.141-150、学芸出版社、2023.3

◆ 査読付き論文：

清水宏樹・安藤慎悟・谷口守：住まいからの CTD 生活圏の提案とその都市機能誘導区域との対応実態、－パーソントリップ調査の新たな活用展開－、土木学会論文集 D3 特別企画(土木計画学：政策と実践)、Vol.78、No.6、II_35-II_44、2022.

室岡太一・岡野圭吾・武田陸・谷口守：個人特性による買い物重視項目の差異、－時代・年代・世代に着目して－、土木学会論文集 D3 特別企画(土木計画学：政策と実践)、Vol.78、No.6、II_45-II_55、2022.

武田陸・石橋澄子・谷口守：行動弾性図に見る COVID-19 流行がもたらした生活行動変化、－元に戻ることに戻らないことの定量的把握－、土木学会論文集 D3 特別企画(土木計画学：政策と実践)、Vol.78、No.6、II_95-II_107、2022.

安藤慎悟・管野貴文・清水宏樹・谷口守：全国における非訪問型関係人口の活動実態、－COVID-19 収束後の訪問型へのステップアップに着目して－、土木学会論文集 D3 特別企画(土木計画学：政策と実践)、Vol.78、No.6、II_108-II_117、Vol.39)、2022.

小松崎諒子・武田陸・宗健・谷口守：COVID-19 によるオンラインシフトのパターン分析、－個人の類型化を通じて－、土木学会論文集 D3 特別企画(土木計画学：政策と実践)、Vol.78、No.6、II_118-II_129、2022.

岡野圭吾・室岡太一・安藤慎悟・谷口守：全国における購買環境への主観的評価の推定、－都道府県と品目による比較－、土木学会論文集 D3 特別企画(土木計画学：政策と実践)、Vol.78、No.6、II_159-II_167、2022.

御手洗陽・小松崎諒子・千葉磨玲・谷口守：モビリティ・イノベーションを踏まえた新たな診療手段の選好特性、交通工学論文集、Vol.8、No.3、pp.11-19、2022.

Ishibashi, S., & Taniguchi, M. : Workstyle change effects on physical activity and health consciousness in Japan: Results from COVID-19 lifestyle activity survey. Transportation Research Interdisciplinary Perspectives, 15, 100657. 2022.

室岡太一・小林泰輝・谷口守：人の動きに見る都市機能誘導区域の設定課題、－広域的な視点から－、都市計画論文集、No.57-3、pp.1218-1225、2022.

小松崎涼子・石橋澄子・宗健・谷口守：若年層における活動場所及び価値観の多様化の実

態、一オンラインシフトのパターン分析を通じて一、都市計画論文集、No.57-3、
pp.1491-1497、2022.

清水宏樹・室岡太一・谷口守：東京都市圏における 15-minute city の実現実態、一生活
サービス拠点としての都市機能誘導区域の可能性一、都市計画論文集、No.57-3、
pp.592-598、2022.

武田陸・久米山幹太・谷口守：COVID-19 流行下での「郊外への分散」の発生要因、一転
居者の属性と転居先選択志向の変化に着目して一、都市計画論文集、No.57-3、
pp.1132-1139、2022.

安藤慎悟・川合春平・石橋澄子・谷口守：全国における地域貢献型社会参加活動の変遷、
一時代・年齢・世代に着目して一、実践政策学、vol.8、no.2、p175-184、2022.

安藤慎悟・Golubchenko STANISLAVA・谷口守：人物像にみる全国における訪問型関係
人口の活動実態、一活動場所を踏まえた担い手の検討一、土木学会論文集(政策と実践)、
Vol.79、No.1、2023.

◆ 論説等：

谷口守監修：知能を持つ都市ースマートシティ、人類の未来年表、環境の教科書、Newton
別冊、pp.134-143、(リプリント) 2022.6.

町村敬志・谷口守：「ほどほど都市」と適正規模、City & Life、No.135、pp.14-21、2022.8.

谷口守：三位一体(研究・制度化・普及啓発)による「コンパクト+ネットワーク」の体
現、都市計画、No.358、p.100、2022.9.

谷口守：コンパクトシティの誤解を解く、土木学会誌、Vol.107、No.12、pp.20-21、2022.12.

谷口守：ウィズコロナ時代の到来と新たな空間整備、総研レポート、Vol.21、pp.19-26、
2022.12.

谷口守：ウォークブルシティ入門、一10のステップでつくる歩きたくなるまちなか一、書
評、運輸政策研究、Vol.25、p.67、2023.2.

谷口守：ポストヒューマンセントリックへの途上にて、一7つの異なる格闘シーンから一、
Biomimetica、Journal of Biomimetics Network Japan、pp.9-11、2023.3.

谷口守・鈴木健嗣・藤井さやか・茂木貴志：新たな時代を迎えたつくばセンター地区の
今後の展望、一リアル空間を支えるデジタル技術一、TUTC Library、No.49、
つくばセンター地区における都市活動実態調査(2018-2021)、pp.3-26、一般財団法人
つくば都市交通センター、2023.3.

◆ 学会発表等：

安藤慎悟・Golubchenko STANISLAVA・谷口守：全国を対象とした訪問型関係人口の人
物像、一担い手のペルソナを探る一、土木計画学研究・講演集、Vol.65、PS1-8、12pages、
2022.6

- 室岡太一・久米山幹太・谷口守：OD パターンから考える立地適正化計画の意義、一誘導区域の発生集中交通量に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.65、PS1-36、8pages、2022.6.
- 小松崎諒子・小林泰輝・宗健・谷口守：満足度から考える WM(ワークプレイス・マネジメント)、一仕事場所の組み合わせを配慮して一、土木計画学研究・講演集、Vol.65、PS1-22、9pages、2022.6. [優秀ポスター賞受賞]
- 清水宏樹・武田陸・川合春平・谷口守：「身体的な困難さ」が外出行動実態に及ぼす影響と将来の課題、土木計画学研究・講演集、Vol.65、PS1-2、9pages、2022.6.
- 石橋澄子・安藤慎悟・谷口守：COVID-19 流行下での交通行動変化と健康への影響、一ポストコロナの健康まちづくりを考える一、土木計画学研究・講演集、Vol.65、PS1-7、9pages、2022.6.
- 大平航己・石橋澄子・谷口守：30 年前と比較した神事の存廃とその要因、一茨城県を対象とした俯瞰的視点から一、土木計画学研究・講演集、Vol.65、PS1-13、6pages、2022.6. [優秀ポスター賞受賞]
- 武田陸・室岡太一・谷口守：COVID-19 は転居先選択行動をどう変えたのか、一住宅特性も考慮した都市構造変化への視座一、土木計画学研究・講演集、Vol.65、PS1-26、10pages、2022.6.
- 川合春平・武田陸・谷口守：全国乗り放題サブスクリプション型公共交通運賃制度の提案、一料金の概算と受容可能性一、都市計画報告集、Vol.21、No.2、pp.122-129、2022.09.
- 安藤慎悟・Golubchenko STANISLAVA・久米山幹太・谷口守：中央省庁による関係人口創出施策の動向、都市計画報告集、Vol.21、No.2、pp.204-211、2022.09.
- 谷口守：バイオミメティクスから蟲観学へ：都市計画の進化論、第 71 回高分子討論会、S16 自然共生とエコミメティクス、2T05、2022.9.
- 石橋澄子・大平航己・川合春平・谷口守：COVID-19 を経てリバウンドする自動車 CO2 排出量、一流行下 5 時点の生活行動データから見る行動変容の必要性一、土木計画学研究・講演集、Vol.66、37-3、9pages、2022.11.
- 安藤慎悟・Golubchenko STANISLAVA・久米山幹太・谷口守：地方部での訪問型関係人口拡大に向けた方策の検討、一無関与者の人物像に着目して、一土木計画学研究・講演集、Vol.66、17-9、11pages、2022.11.
- 武田陸・小林泰輝・谷口守：ピークレス化する生活時空間の実態、一COVID-19 流行下での生活時間・居住地選択に着目して一、土木計画学研究・講演集、Vol.66、6-1、10pages、2022.11.
- 石橋澄子・大平航己・川合春平・谷口守：COVID-19 が都市部における自動車 CO2 排出量に与えた影響、一第 1 回緊急事態宣言を経た 3 時点比較より一、都市計画報告集、Vol.21、No.3、pp.290-296、2022.12.
- 大平航己・Golubchenko STANISLAVA・谷口守：地域における神事の中断とその復活に

関する研究、一全国を対象とした 2001 年以降の新聞記事データによる分析、
都市計画報告集、Vol.21、No.4、pp.363-367、2023.2.

◆ その他：

受賞：都市計画学会石川賞

指導学生受賞（小松崎諒子：土木計画学研究発表会優秀ポスター賞／大平航己：土木計
画学研究発表会優秀ポスター賞／安藤慎吾：研究群長表彰／武田陸：研究群
長表彰／土方まりこ：学位プログラムリーダー表彰／永井孝弥：学位プログ
ラムリーダー表彰／川合春平：学群長表彰／大平航己：社会工学都市計画同
窓会最優秀賞（修士論文）／武田陸：社会工学都市計画同窓会優秀賞（修士
論文）／小林泰輝：倉谷賞／川合春平：つくばスカラシップ／小林泰輝：つ
くばスカラシップ／大平航己：茗溪会賞／小林泰輝：茗溪会賞）

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

学務・カリキュラム委員、早期修了プログラム実施委員

◆ 学位プログラム組織の業務への貢献（委員会等）：

論文委員長、地域未来創生コース担当

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

◆ 学会活動（役員／委員）：

交通計画協会 代表理事

日本モビリティ・マネジメント会議 理事

日本不動産学会 理事

日本都市計画学会 都市構造評価特別委員会 委員

日本交通政策研究会 理事

土木学会 環境賞評価委員

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など：

国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会」分科会長

国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会

都市計画基本問題小委員会」委員長

国土交通省 「社会資本整備審議会 建築分科会」委員

国土交通省 「社会資本整備審議会 住宅宅地分科会」 副会長
国土交通省 「交通政策審議会」 臨時委員
国土交通省 「交通政策審議会 技術部会 グリーン社会ワーキンググループ」 委員
国土交通省 「社会資本整備審議会・交通政策審議会 技術部会 国土交通技術行政の
基本政策懇談会」 委員
国土交通省 「新たな都市交通調査体系のあり方に関する検討会」 座長
国土交通省 「スマートシティ海外展開に関する有識者会議」 委員
国土交通省 「交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会」 委員
国土交通省 「河川技術評価委員会 流域計画・流域管理課題評価分科会」 委員
国土交通省・公共交通利用推進等マネジメント協議会 「エコ通勤認証・普及等委員会」 委員
国土交通省・(一財)計量計画研究所 「全国都市交通特性調査検討会」 委員
国土交通省 「日本オープンイノベーション大賞」 有識者委員
環境省・(一社)地域循環共生社会連携協会 「LRT・BRT 導入利用促進事業審査委員会」 委員
環境省・(一社)国際環境研究協会 「令和4年度交通分野専門委員会」 委員
都市再生機構 「独立行政法人都市再生機構 事業評価監視委員会」 委員
(一財)運輸総合研究所 「2050年の日本を支える公共交通のあり方検討委員会
地域内交通小委員会」 委員
(一財)運輸総合研究所 「人と多様なモビリティが共生する安全で心ときめくまちづくり
調査アドバイザー会議」 委員
(一社)持続可能な地域社会総合研究所 「地域社会の未来像を描く全国研究フォーラム」
総括アドバイザー
茨城県 「茨城県都市計画審議会」 副委員長
茨城県 「茨城県国土利用計画審議会」 委員長
茨城県 「茨城県土地利用審査会」 委員
茨城県 「茨城県大規模小売店舗立地審議会」 委員
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」 会長
福岡県 「福岡県都市計画審議会 持続可能な都市づくり専門委員会」 委員
福岡県 「福岡県都市計画基本方針等検討委員会」 委員
石岡市 「石岡市都市計画審議会」 委員長
八潮市 「八潮市都市計画マスタープラン策定委員会」 委員長
千葉市 「モノレールを賢く活用した地域づくりを進めるための方策検討委員会」 専門委員
文京区 「文京区都市マスタープラン見直し検討協議会」 委員
大田区 「大田区都市計画審議会」 委員
静岡市 「静岡市次期みちづくり計画有識者検討会議」 委員
静岡市 「静岡県立地適正化計画変更アドバイザー会議」 会長
境町 「境町都市計画審議会」 会長

大磯町 「大磯町まちづくり審議会」委員

都市計画コンサルタント協会 「認定都市プランナー評価委員会」委員

積水インテグレートドリサーチ 「積水化学自然に学ぶものづくり研究助成プログラム

審査委員会」委員

氏名	張 勇兵	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 社会工学類：情報ネットワーク／情報リテラシー（講義）／情報技術演習／プログラミング実習
- ◆ 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類生：6名
 - 社会工学専攻博士後期課程：5名
 - 社会工学専攻博士前期課程：4名
 - 社会工学専攻博士前期課程研究生：2名

2. 研究

- 当該年度の研究活動概要：
 - モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、エスティック光通信ネットワークにおける波長・分波器・コア割り当て方式に関する研究
- 著書・論文等：
 1. W. Zheng, M. Yang, C. Zhang, Y. Zheng, and Y. Zhang: Robust design against network failures of shared backup path protected SDM-EONs, *OSA/IEEE J. Lightwave Technology*, Vol. 41, No. 10, pp. 2923-2939, (Jan. 2023). DOI: 10.1109/JLT.2023.3239743
 2. S. Yuan, J. Li, H. Chen, C. Wu, and Y. Zhang: JIRA: Joint incentive design and resource allocation for edge-based real-time video streaming systems, *IEEE Trans. Wireless Communications*, Vol. 22, No. 5, pp. 2901-2916, (Oct. 2022). DOI: 10.1109/TWC.2022.3215140
 3. W. Zheng, M. Yang, C. Zhang, Y. Zheng, and Y. Zhang: Evaluation of Optical Transport Unit Line-card Integration in Spatially and Spectrally Flexible Optical Networks in terms of Device Cost and Network Performance, *OSA/IEEE J. Lightwave Technology*, Vol. 40, No. 19, pp. 6319-6330, (Aug. 2022). DOI: 10.1109/JLT.2022.3195282

- 学会発表等：

- [1] W. Zheng, Z. Guo, and Y. Zhang: Time-Aware Machine Learning-based Traffic QoS Classification, 情報処理学会インターネットアーキテクチャ研究会(IA)第 56 回研究会、7 ページ、京都(2022 年 3 月 7-8 日).
- [2] Y. Zheng and Y. Zhang: Routing and Spectrum Assignment in MCF-SDM Networks, 情報処理学会インターネットアーキテクチャ研究会(IA)第 56 回研究会、7 ページ、京都(2022 年 3 月 7-8 日).

- その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究群カリキュラム委員、システム情報工学研究群 FD 委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類コンピュータ委員、社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類運営委員、社会工学・サービス工学学位プログラムカリキュラム委員長、社会工学・サービス工学学位プログラム・社会工学類教学マネジメント・FD 委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 1) **Associate Editor** (2007～), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.
 - 2) **Japanese representative of IFIP Technical Committee 7** (System Modelling and Optimization) (2020～)
 - 3) **Program Committee**, IEEE Int. Wireless Communications and Mobile Computing Conference (IWCMC2022), Dubrovnik, Croatia, May 30 – June 3, 2022.
 - 4) **Referee** for Ad Hoc Networks, IEEE/OSA Journal of Lightwave Technology, IEEE Journal of Selected Areas in Communications, Peer-to-Peer Networking and Applications

氏名	藤川 昌樹	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位 P (専任)		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (専任)		
担当学類	社会工学類 (専任)		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学 類 都市計画の歴史／現代まちづくり論／住環境計画演習
 - 大学院 都市形成史/社会工学 WS I・II

- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2人
 - 社会工学学位プログラム 前期8人 後期8人
 - 社会工学学位プログラム研究生 5人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・受託研究「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」(代表)
 - ・受託研究「個人・コミュニティ・環境の相互関係史」(分担)
 - (モビリティイノベーションの社会応用と未来社会工学研究、トヨタ自動車、代表：吉瀬章子)
 - ・基盤研究 (A)「大火からの復興を通して見た近代の町並みの再評価」(代表)

- ◆ 著書・論文等：
 - ・劉一辰・李雪・藤川昌樹「奈良県橿原市今井町における駐車場の出現パターン：重要伝統的建造物群保存地区の駐車空間に関する研究 その2」(『日本建築学会計画系論文集』796、pp. 1,010-1,020、2022年6月)
 - ・余思奇・藤川昌樹「五台山塔院寺の建築の構成とその変容」(『日本建築学会計画系論文集』799、pp. 1,751-1,761、2022年9月)
 - ・藤川昌樹「新刊紹介『明暦の大火』」(『都市史研究』9、p.112、2022年10月)
 - ・呂志裕・藤川昌樹「中国における団地構内の小規模野菜市場の空間利用－街商と住民の共存モデル－」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築計画、pp.195-196、2022年9月)
 - ・宋宇辰・藤川昌樹「明清時代漕運と京杭大運河沿い都市の空間特性との関係－臨清を例として－」(『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.423-424、2022年9月)

- ・余思奇・藤川昌樹「清代五台山顛通寺の火災と修復工程」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.425-426、2022年9月
- ・陳穎・藤川昌樹「清代福建省における「舗」の分布とその特性―連江県城を事例として―」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.503-504、2022年9月
- ・呂夢琦・藤川昌樹「大正期から戦前までの山下町における中国系事業所と公共施設の立地と特徴―Japan Directory、商工案内の分析から―」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.569-570、2022年9月

◆ 学会発表等：

- ・藤川昌樹 「石岡に現存する文化財の現状と仮題」
(茨城県建築士会石岡支部主催講演会「石岡の歴史まちづくりを考える」、小美玉市コスモス文化ホール、2022年10月23日)
- ・藤川昌樹「「伝統的建造物群保存対策調査」から見た結城市の歴史資産」
(RAC2022 年度研究集会・結城フォーラム「結城紬が築いた歴史的風致を継承するために」結城市市民情報センター、2022年10月30日)

◆ その他：

- ・教育研究期間受託研究員の受け入れ：安高尚毅（小山高専教授、2022年4月～2023年1月）

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：特になし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・社会工学域関連施設委員長
 - ・社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム・社会工学類運営委員
 - ・社会工学類3年クラス担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

学会活動

- ・建築史学会編集副会長・常任委員
- ・日本建築学会員
- ・日本都市計画学会会員

学外から委嘱された委員

- ・室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- ・茨城県まちづくりアドバイザー
- ・史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）

- ・桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会会長
- ・つくば市都市景観審議会委員
- ・土浦市都市計画審議会会長
- ・桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
- ・土浦市文化財保護審議会委員
- ・つくば市文化財保護審議会会長
- ・笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
- ・石岡市景観調査委員会委員長
- ・茨城県文化財保護審議会委員
- ・結城市景観審議会委員長・景観アドバイザー
- ・文化庁文化審議会文化財分科会第二専門調査会委員
- ・土浦市文化財保存活用地域計画推進協議会委員
- ・石岡市文化財保存活用地域計画推進協議会委員
- ・土浦市公共施設等再編・再配置策定委員会委員長
- ・日本建築学会賞選考委員（業績部会、幹事）
- ・桜川市上曽トンネル開通に伴う地域活性化委員会委員長
- ・土浦市歴史的風致維持向上計画推進協議会会長
- ・高萩市スポーツ推進計画策定委員会委員長

氏名	繆 瑩	職名	教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	組合せ論、情報セキュリティ、情報通信・蓄積		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：微積分 II・III/離散数学/情報ネットワーク
大学院：情報セキュリティ
- ◆ 指導学生数：社会工学類 0 人/社会工学学位プログラム（前期）2 人/社会工学学位プログラム（後期）2 人/研究生 1 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費基盤研 (B) 「スパースな結合行列を持つ組合せ的構造の分析と構成」 (代表)
日本学術振興会/二国間交流事業 (ロシアとの共同研究)
- ◆ 著書・論文等：
 - [1] M. Fernandez, G. Kabatiansky, and Y. Miao, A novel support recovery algorithms and its applications to multiple-access channels, 2022 IEEE International Multi-Conference on Engineering, Computer and Information Sciences (SIBIRCON), 170-173.
 - [2] Y. Gu, I. Vorobyev, and Y. Miao, Secure codes with list decoding, 2022 IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT), 2350-2355.
 - [3] Y. Gu, S. Akao, N. N. Esfahan, Y. Miao, and K. Sakurai, On the Security Properties of Combinatorial All-Or-Nothing Transforms, 2022 IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT), 1447-1452.
 - [4] Y. Gu, S. Akao, N. N. Esfahan, Y. Miao, and K. Sakurai, On the information-theoretic security of combinatorial all-or-nothing transforms, IEEE Transactions on Information Theory 68 (2022), 6904-6914.

[5] H. Cai, C. Fan, Y. Miao, M. Schwartz, and X. Tang, Optimal locally repairable codes: An improved bound and constructions, *IEEE Transactions on Information Theory* 68 (2022), 5060-5074.

[6] H. Cai, Y. Miao, M. Schwartz, and X. Tang, A construction of maximally recoverable codes with order-optimal field size, *IEEE Transactions on Information Theory* 68 (2022), 204-212.

◆ 学会発表等 :

◆ その他 :

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

コンプライアンス推進委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :

大学院 : 入試実施委員

域 : 経営工学人事世話人

4. 学外の社会貢献

各種活動 :

Editor: *Graphs and Combinatorics*, Springer, April 2002 - present.

Editor: *Journal of Combinatorial Designs*, John Wiley & Sons, January 2004 - present.

Editor: *Journal of the India Society of Agricultural Statistics*, August 2009 - present.

Editor: *Bulletin of the Institute of Combinatorics and its Applications*, January 2017 - present.

氏名	渡辺 俊	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻・環境科学専攻（生命環境科学研究科）		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築情報学、都市情報学、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 空間デザイン論／都市計画情報演習／
基本製図／住環境計画演習／設計演習Ⅰ／設計演習Ⅱ
大学院 空間情報科学／地域データ解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人／社会システム工学専攻 5人／研究生 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

基盤研究(B) 創造性の論理的・技術的探求に基づくデザイン共創環境の構築と教育プログラムの開発

挑戦的研究(萌芽) コンパクトシティを目指した都市デザイン戦略のための都市構造評価指標の探究

◆ 著書・論文等：

上野諒介、渡辺俊：情報デザイン共創環境を用いた集合住宅設計補助ツールの提案、第45回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2022年12月

孫佳辰、渡辺俊：中国旧市街地のゲーテッドコミュニティの再生に関する研究 河南省鄭州市を事例として、第45回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2022年12月

高須賀アマラ、渡辺俊：分散型エネルギーシステム導入の面でのコンパクトシティ政策の影響について、第45回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2022年12月

宮下開成、渡辺俊：城下町の空間評価指標の検討とその適応に関する研究 街路網の広がりの変遷を対象として、第45回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、日本建築学会、2022年12月

◆ 学会発表等：

渡辺 俊：建築と情報－新たな創造に向けて、建築と情報（2022年度建築学会大会 情報システム技術部門 研究協議会資料）/渡辺, 俊/pp.77-78、2022年9月

孫佳辰、渡辺，俊：中国旧市街地のゲーテイドコミュニティの再生に関する研究河南省鄭州市を事例として、2022 年度日本建築学会大会(北海道)、2022 年 9 月

高須賀アマラ、渡辺，俊：地上設置型太陽光パネルの立地の特徴 福島県西郷村を対象として、2022 年度日本建築学会大会(北海道)、2022 年 9 年

安井悠人、小野尋子、渡辺，俊：沖縄本島における大規模ショッピングセンターの選択要因と E コマースの影響に関する研究 ショッピングセンター選択時の直線距離と時間距離の違いに着目して、2022 年度日本建築学会大会(北海道)、2022 年 9 年

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系技術室長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 コンピュータ委員
社会工学類 コンピュータ委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
日本建築学会学術推進委員会委員
日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員長
日本建築学会デザイン数理知能研究小委員会委員
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウムWG委員
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG委員
国土交通省建築 BIM 推進会議委員
他

氏名	雨宮 護	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市計画入門／住環境計画概論／都市計画情報演習／現代まちづくり論／住環境計画演習／設計演習Ⅰ／設計演習Ⅱ／都市計画事例講義／都市数理／地球規模課題基礎実習
大学院：都市と環境／プレイスメイキング／ファシリテーター育成プログラム／ファシリテーター育成プレプログラム

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 人／地球規模課題学位プログラム 2 人／社会工学学位プログラム（前期）8 人／社会工学学位プログラム（後期）1 人／社会工学専攻（後期）1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「地理空間ビッグデータを用いた犯罪の時空間分析と社会実験への展開」, 研究代表者（2021 年度～2024 年度）
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「警察の情報発信における「信頼」－行動科学・倫理学・政策科学からの学際的問題解決」（代表：島田貴仁（科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長），分担研究者，2019 年度～2022 年度）
3. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（挑戦萌芽）「集合住宅における子ども・女性に対する犯罪の実態分析と対策立案」（代表：樋野公宏（東京大学工学系研究科准教授）），分担研究者（2018 年度～2021 年度）※期間延長

◆ 著書・論文等：

（査読付学術雑誌掲載論文）

1. 山根万由子・雨宮護・大山智也・島田貴仁（2022）：人の存在量と犯罪との関連：COVID-19 緊急事態宣言を自然実験として活用した実証分析，都市計画論文集，

57(3), pp.1498-1503.

2. 蜂須康介・雨宮護・樋野公宏 (2022) : 公園における子供・女性を被害者とする脅威事案の発生実態および接道性との関連, 都市計画論文集, 57(3), pp.1447-1452.
3. 藤本典志・大山智也・雨宮護 (2022) : 高ロス率商品に対するレジからの監視性確保による万引き抑止効果の検証 : 総合リユース店舗における店舗レイアウト変更のランダム化比較試験, 日本建築学会計画系論文集, 87 (797), pp.1130-1140.

(総説・報告)

(審査のない雑誌論文・紀要)

1. 早川礼菜・雨宮護 (2023) Park-PFI を導入した都道府県営公園の計画段階における市・民間企業・市民の参画実態 : 制度当初期に事業に着手した 8 公園を対象とするヒアリング調査報告, 都市計画報告集, 21 巻 4 号, pp.381-384.
2. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2022) Exploratory potential analysis of Mapillary for streetscape monitoring in Japan, 地理情報システム学会講演論文集, 31, CD-ROM
佐藤理貴・雨宮護・巖先鏞・中谷友樹 (2022) 余暇歩行量と近隣レベルでの土地利用の配置パターンとの関連 : GULP データを用いて, 地理情報システム学会講演論文集, 31, CD-ROM

◆ 学会発表等 :

1. 水上瑛璃佳・雨宮護・島田貴仁 (2023) 女性専用車両が被害者非難に与える影響 : 被害の回避可能性認知に着目して, 第 16 回日本環境心理学会大会, オンライン, 2023.3.11 (梗概 : 環境心理学研究, 11(1), p.21)
2. 米田有希・雨宮護 (2023) GPS ログデータから見たアクティビティスペースの地理的分布と COVID-19 流行前後の変化, 第 16 回日本環境心理学会大会, オンライン, 2023.3.11 (梗概 : 環境心理学研究, 11(1), p.22)
3. 今井巧・雨宮護・島田貴仁 (2023) 子供の前兆事案被害における保護者の警察・学校への連絡意図の形成要因, 第 16 回日本環境心理学会大会, オンライン, 2023.3.11 (梗概 : 環境心理学研究, 11(1), p.20)
4. 広兼靖也・雨宮護 (2022) 社会地区分析を用いた筑波研究学園都市の変容の記述 : 公務員宿舎廃止後の再開発に着目して, 日本造園学会関東支部大会, 茨城大学, 2022.12.18 (梗概 : 2022 年度日本造園学会関東支部大会梗概集, 40, 70-71)
5. 早川礼菜・雨宮護 (2022) Park-PFI を導入する県営公園の計画段階における市・民間企業・市民の参画実態, 日本造園学会関東支部大会, 茨城大学, 2022.12.18 (梗概 : 2022 年度日本造園学会関東支部大会梗概集, 40, 38-39)
6. 山根万由子・雨宮護・大山智也・島田貴仁 (2022) : 人の存在量と犯罪との関連 : COVID-19 緊急事態宣言を自然実験として活用した実証分析, 日本都市計画学会 2022 年度全国大会 (第 57 回論文発表会), 宇都宮大学, 2022.12.02.

7. 蜂須康介・雨宮護・樋野公宏 (2022) : 公園における子供・女性を被害者とする脅威事案の発生実態および接道性との関連, 日本都市計画学会 2022 年度全国大会 (第 57 回論文発表会), 宇都宮大学, 2022.12.02.
8. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2022) Analyzing road coverage, spatial density, and temporal pattern of contributions of Mapillary in Tokyo, CSIS DAYS 2022, ハイブリッド, 2022.11.18-19 (梗概: Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2022, C13)
9. Xinrui Zheng and Mamoru Amemiya (2022) Exploratory potential analysis of Mapillary for streetscape monitoring in Japan, 第 31 回地理情報システム学会研究発表大会, 沖縄産業支援センター, 2022.10.29-30 (梗概: 地理情報システム学会講演論文集, 31, CD-ROM)
10. 佐藤理貴・雨宮護・巖先鏞・中谷友樹 (2022) 余暇歩行量と近隣レベルでの土地利用の配置パターンとの関連: GULP データを用いて, 第 31 回地理情報システム学会研究発表大会, 沖縄産業支援センター, 2022.10.29-30 (梗概: 地理情報システム学会講演論文集, 31, CD-ROM)
11. 近藤正芳・大淵正博・藤井中・吉澤睦博・雨宮護 (2022) 商業施設開業の刑法犯人数変化への影響, 日本建築学会 2022 年度大会 (北海道), オンライン, 2022.9.5-8 (梗概: 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.663-664)
12. 田中大輔・雨宮護 (2022) 自転車利用者を想定したまちあるきマップの改善提案: 茨城県つくば市栄地区を対象として, 2022 年度農村計画学会春期大会, オンライン, 2022.4.16 (梗概: 農村計画学会春期大会学術研究発表会要旨集, pp.15-16)

◆ その他:

3. 学内運営

◆ 研究群や全学組織等の業務への貢献:

1. 筑波トランスパシフィックプログラム実施委員

◆ 学位プログラム組織の業務への貢献 (委員会等):

1. システム情報系研究倫理審査委員
2. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム広報委員
3. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム教学マネジメント委員
4. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム新入生オリエンテーション委員
5. 大学院社会工学学位プログラム・サービス工学学位プログラム施設委員会
6. 社会工学類広報委員

7. 社会工学類教学マネジメント委員
8. 社会工学類新入生オリエンテーション委員
9. 学類施設委員会
10. 社会工学データサイエンス運営委員
11. 社会工学類1学年担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

(学会活動)

1. 日本造園学会「論文集委員会」副委員長（2023年度～）
2. 日本環境心理学会「運営委員会」委員（2017年度～2020年度，2023年度～）
3. 日本都市計画学会「企画調査委員会研究交流事業小委員会」委員（2020年度～）
4. 日本都市計画学会「査読委員会」委員（2008年度～2010年度，2014年度～2020年度，2022年度～）
5. 日本造園学会研究論文集校閲委員会委員（2007年度～）
6. 日本都市計画学会「会長アドバイザー会議」委員（2017年度～）
7. 日本都市計画学会表彰委員会委員（2021年度～2022年度）
8. 日本造園学会論文集委員会委員（2017年度～（2017年度～2018年度幹事，2019年度～2020年度テーブル幹事，2021年度～2022年度幹事））

(学外組織からの委嘱委員等)

1. 牛久市「都市計画審議会」副会長（2019年度～）
2. 牛久市「都市計画マスタープラン審議会」副会長（2020年度）
3. 守谷市「景観審議会」副会長（2021年度～）
4. 北区「景観づくり審議会」委員（2017年度～）
5. 足立区「防犯まちづくり推進アドバイザー」（2017年度～）
6. 市川市「空家等対策協議会」委員（2017年度～）
7. 八潮市「都市計画審議会」委員（2017年度～）
8. 土浦市「建築審査会」委員（2022年度～）
9. 大阪府警察「防犯対策高度化協働研究会」委員（2017年度～）
10. 福岡県警察「犯罪予防研究アドバイザー」（2014年度～）
11. つくば市「生活安全推進協議会」副会長（2016年度～）
12. つくば市「都市計画審議会」委員（2016年度～）
13. つくば市「明るいまちづくり協議会」副会長（2015年度～）
14. つくば市「研究学園中心地区の街路灯設置に向けた協議会」副会長（2015年度～）
15. 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員（2013年度～）

16. 公益財団法人都市緑化機構「SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）都市の
オアシス分科会」審査委員（2021年度～）

（一般向け招待講演）

1. 雨宮護（2022）地理空間ビッグデータ時代の犯罪分析，CSIS シンポジウム 2022
Livable Cities（住みやすい都市）：空間情報科学からのアプローチ，オンライン，
2022.12.09.
2. 雨宮護（2022）再犯防止とみどり：事例と可能性，Green Tokyo 研究会 有識者懇談
会，3×3 Lab Future，2022.11.28.

氏名	上市 秀雄	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定、認知心理学、社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経済行動論／戦略行動システム演習／ファーストイヤーセミナー
 - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 4名
 - 社会工学学位プログラム 博士前期課程 5名
 - サービス工学学位プログラム 博士前期課程 1名
 - 社会工学学位プログラム 博士後期課程 7名
 - 研究生 2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、ストレス対処、消費者心理など
- ◆ 著書・論文等：
 1. 上市秀雄（2022）. 「後悔を活かす心理学：成長と成功を導く意思決定と対処法」
中公新書. 271p
 2. 上市秀雄（2022）. 「Topic 15 意思決定における後悔のもつ適応的機能
日本応用心理学会「応用心理学ハンドブック」福村出版. (分担2ページ)
- ◆ 学会発表等：
 1. 上市秀雄・織田弥生・室町祐輔（2022）.
活かすことができた後悔と活かすことができなかった後悔の特徴
日本心理学会第86回大会発表論文集. 2AM-049-PL.
 2. 謝雨婕・上市秀雄（2022）.
中学生の達成目標志向が学業成績に影響を及ぼすプロセス
—社会的比較感情・行動を媒介にして—
日本心理学会第86回大会発表論文集. 1AM-079-PP.

3. 呉媛靖・上市秀雄 (2022).

中国人大学生におけるダイエット行動に関連する心理・社会的要因についての検討
日本心理学会第 86 回大会発表論文集. 2EV-071-PR.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
研究群企画室委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
学会委員等
産業・組織心理学会 理事
日本応用心理学会 企画委員
学会誌査読
日本応用心理学会
メディア・講演等
NHK Nらじ 特集『「もしも〇〇だったら」から考える防災』出演 (2022/10/11)

氏名	梅本 通孝	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
専攻（博士前期課程）	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市・地域防災		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 都市防災計画/都市・地域科学演習/都市計画事例講義

大学院： 都市リスクマネジメント論/レジリエント都市計画演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 8人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

河川氾濫時の広域避難効果に関する研究

東アジア・東南アジア各国における風水害時情報伝達体制の国際比較に関する研究

被災地における非物的支援に関する研究

中国中山間地域におけるコミュニティ防災に関する研究

◆ 著書・論文等：

池田侑輝, 梅本通孝：消防隊員の活動経験談を活用した水災害活動時の意思決定要因分析, 地域安全学会論文集, No.41, pp1-10, 2022.11

趙旭青, 梅本通孝：中国四川省都江堰市中山間地域における自治防災活動の課題とその発展性に関する研究, 地域安全学会論文集, No.41, pp119-129, 2022.11

丹路遥斗, 梅本通孝：超過洪水に関するダム管理者の認識と下流域住民への情報提示上の課題の把握, 地域安全学会論文集, No.41, pp131-141, 2022.11

浅沼直樹, 梅本通孝：原子力発電所の立地・周辺地域におけるリスクコミュニケーションへの活用に向けたペルソナの設定に関する研究, 地域安全学会論文集, No.41, pp155-165, 2022.11

針谷凌輔, 梅本通孝：木造密集市街地の空き家もたらすリスクに対する住民の認知に関する研究, 地域安全学会論文集, No.41, pp167-175, 2022.11

Sunyong Eom, Michitaka Umemoto and Tsutomu Suzuki, Cross-border evacuation and intermunicipal cooperation during large-scale flood disasters, International

Journal of Disaster Risk Reduction (2021 IF:4.842, SNIP 1.828, SJR: 1.096, CiteScore Safety Research 6/95 94%), 79, <https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2022.103159>, 2022.7.

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究群学務・カリキュラム委員会 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 学務委員会 委員長

リスク・レジリエンス工学学位プログラム M2 学年主担当

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 達成度評価委員会 委員

リスク・レジリエンス工学学位プログラム R2EC 対応委員会 委員

リスク・レジリエンス工学学位プログラム 表彰委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動

地域安全学会 理事

日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員

地域安全学会論文集 査読者

日本都市計画学会論文集 査読者

日本建築学会論文集 査読者

日本自然災害学会誌 査読者

土木学会論文集 査読者

◆ 学外から委嘱された委員

鳥取県原子力安全顧問

茨城県避難所検証委員会 委員

東京消防庁火災予防審議会調査研究委員会 委員

茨城県稲敷市都市計画審議会 会長

茨城県潮来市第2期総合戦略有識者会議 委員

日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員，国際事業委員会書面審査員・書面評価員

◆ 講演等

梅本通孝：多義的な「避難」の弊害，日本災害情報学会第25回大会企画シンポジウム「多様化する『避難』という言葉について考える」，2022.10.8

氏名	大久保 正勝	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	マクロ経済学, 計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 情報リテラシー演習／社会工学演習／マクロ経済学／マクロ計量分析
大学院 資産評価論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 2人／学位プログラム 0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「モデル不確実性を考慮したマクロ経済モデルの実証的評価と分析手法の開発」 (代表)
 - ・筑波大学システム情報系リサーチ・グループ 「ビッグデータ時代における実証分析の理論と応用」 (サポートメンバー)
- ◆ 著書・論文等：
 1. Okubo, Masakatsu (2023) The Moment Restrictions for the Durable Consumption Model with Recursive Utility Revisited, *Finance Research Letters*, Vol. 52, 103453.
 2. Okubo, Masakatsu (2023) Model Uncertainty, Economic Development, and Welfare Costs of Business Cycles, *Journal of Macroeconomics*, Vol. 76, 103514.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報系施設安全衛生管理委員会 委員
- ◆ 学位プログラム組織の業務への貢献 (委員会等)：
社会工学域・学類施設委員会 委員
学類カリキュラム委員会 委員
社会工学類2年クラス担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：なし

氏名	太田 充	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学, 地域科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング入門／都市数理
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学専攻 0 人／社会工学学位プログラム 13 人／サービス工学学位プログラム 2 人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・ 基盤研究 C 「都市における環境リスクの軽減の経済効果に関する研究」 (研究代表者)
 - ・ 基盤研究 C 「独占的競争下での環境オフセットの自発的供給に関する研究」 (研究分担者)
- ◆ 著書・論文等：
 - ・ 審査付論文
Hyacinthe Kouakou Kouassi, Toru Murayama, and Mitsuru Ota (2022): “Life Cycle Analysis and Cost–Benefit Assessment of the Waste Collection System in Anyama, Cote d’Ivoire,” Sustainability 2022, 14(20), 13062, DOI:10.3390/su142013062.
 - YOSHIDA, M., S. J. TURNBULL, AND M. OTA (2023): “Environmental offsets and production externalities under monopolistic competition,” International Tax and Public Finance volume 30, pages 305–325.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学 教職課程委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
論文委員会委員 (大学院)
教学マネジメント委員会委員長 (授業評価・FD) (大学院・学類)

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：都市住宅学会理事会常務理事(業務執行理事)、都市住宅研究センター次長、都市住宅学会総務企画委員会委員長、都市住宅学編集委員会委員、都市住宅学学会賞委員会委員、日本不動産学会総務委員会委員

氏名	奥島 真一郎	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	国際総合学類 専任 社会工学類 兼任		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、環境倫理		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論（国際総合学類開講社会工学類共通）/国際学Ⅳ（専門導入科目）/国際学Ⅳチュートリアル（社会・国際学群）/国際学ゼミナールⅠ（国際総合学類）/独立論文（国際総合学類）/国際学ゼミナールⅡ（国際総合学類）/卒業論文（国際総合学類）

大学院 経済・政策分析（社会工学学位プログラム）

◆ 指導学生数：

国際総合学類 5人/社会工学学位プログラム 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費基盤研究（B）「低炭素化・エネルギー転換の包摂性評価」（代表）

鹿島学術振興財団研究者海外派遣（長期）「包摂的な低炭素化・エネルギー転換に関する研究」（代表）

科研費基盤研究（C）「気候変動危機下の経済システム論」（分担）

◆ 著書・論文等：

“Measuring energy sufficiency: A state of being in neither energy poverty nor energy extravagance,” *USAEE/IAEE Working Paper*, No. 23-583. March 2023.

“How to evaluate energy sufficiency: A direct measurement approach,” *Energy Proceedings*, Vol. 29, 10272, 2022.

◆ 学会発表等：

「包摂的な脱炭素・エネルギー転換について考える：日本の事例から」、環境研究総合推進費 S-18-3 セミナー（於：茨城大学地球・地域環境共創機構）、2022年10月18日。

“Energy poverty and inclusive low-carbon energy transitions,” AMURE Seminar, University of Western Brittany, France, September 15, 2022.

“How to evaluate energy sufficiency: A direct measurement approach,” the 14th International Conference of Applied Energy, Ruhr University Bochum, Germany, August 10, 2022.

◆ その他：

Outstanding Reviewer Award 2022, *Energy Research & Social Sciences* (Elsevier).

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

国際総合学類二年生クラス担任

国際総合学類シス情 TA 担当委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

Research Fellow, Asian Energy Studies Centre, Hong Kong Baptist University

日本政策学生会議（ISFJ）論文審査員

氏名	Eom, Sunyong (嚴先鏞)	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学学位プログラム (分担)		
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム (分担)		
担当学類	地球規模課題学位プログラム (学士) (専任)		
研究分野	都市解析, 空間情報科学, 土地利用計画, ビッグデータ解析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【社会工学類】都市解析

【地球規模課題学位プログラム (学士)】

Freshman Seminar, General Introduction to Global Issues,

Methodology for Global Issues, Literacy in Global Issues (Environment)

Seminars on Global Issues A-I/A-II, Practical Training on Global Issues A-I/A-II

Graduation Research I/II

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費 (若手研究) 「土地利用・施設・交通計画の連携のための生活の利便性に基づいた計画支援手法の開発」 (代表)

ヒロセ財団研究助成「日常・非日常の施設利用における有効な地域連携のための施設計画のための数理モデルに関する研究」 (代表)

◆ 著書・論文等：

長谷川大輔, 嚴先鏞, 西堀泰英：コロナ禍における商業集積地の公共交通のアクセシビリティの変化との滞在人口との関係, 都市計画論文集, Vol.57, No.3, 1281-1287, 2022年10月.

佐野雅人, 嚴先鏞, 鈴木勉：越境施設利用からみた隣接自治体依存構造の空間分析, 都市計画論文集, Vol.57, No.3, 1453-1460, 2022年10月.

榎本俊祐, 嚴先鏞, 鈴木勉：人口密度分布に対応した都市拠点と公共交通路線の同時最適配置モデル分析, 都市計画論文集, Vol.57, No.2, 337-344, 2022年10月.

S. Eom, M. Umemoto, and T. Suzuki. Cross-border evacuation and intermunicipal cooperation during large-scale flood disasters. *International Journal of Disaster Risk Reduction*, 79, 103159. September. 2022.

西堀泰英, 加藤秀樹, 嚴先鏞, 豊木博泰, 佐々木邦明：Wi-Fi パケットセンサーデータを用いたコロナ禍における中心市街地の人々の活動分析, 交通工学論文集, Vol.8, No.2,

pp.B_53-B_62, 2022 年 8 月.

S. Eom and Y. Nishihori, Investigation on Visiting Pattern Change in Commercial Areas during COVID-19: A Case Study of 21 Cities in Japan, ISPRS Annals of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences, May 2022.

◆ 学会発表等：

嚴先鏞，長谷川大輔，西堀泰英，人の流れから見た都市間の関係の可視化，地理情報システム学会講演論文集，2022 年 10 月

嚴先鏞，長谷川大輔，長期的な人口変動を考慮した拠点計画手法，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会，2022 年 9 月

S, Eom, D. Hasegawa, and H. Kim, How Node-place Index Affects Pedestrian Movements, International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, August 2022.

佐藤理貴，雨宮護，嚴先鏞，中谷友樹，余暇歩行量と近隣レベルでの土地利用の配置パターンとの関連：GULP データを用いて，地理情報システム学会講演論文集，2022 年 10 月

S. Eom, and H. Song, 都市サービス施設のアクセシビリティの地域間連携評価，大韓国土・都市計画学会春季学術大会，2022 年 4 月（韓国語）。（オンライン）

◆ 受賞：

CSIS DAYS 2022 全国共同利用研究発表大会優秀共同研究発表賞

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

地球規模課題学位プログラム（学士）運営委員会委員，カリキュラム委員会委員，広報委員会委員，入試委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動：

日本オペレーションズ・リサーチ学会 未来都市の OR 研究グループ 幹事

◆ マスコミ掲載実績

2022 年 9 月 5 日 隣町に避難時間短縮，読売新聞

◆ 外部講演：

2023.3.29 Sustainable and resilient urban planning considering human mobility, Hanyang University, Seoul, Korea.

2022.10.25 Population Mobility after COVID-19 in Japan, Global Demographic Change after COVID-19, Korea Institute for Health and Social Affairs, Seoul, Korea.

氏名	甲斐田 直子	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任 環境学学位プログラム 兼担		
学位プログラム (博士前期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担 国際連携持続科学専攻共同学位プログラム 兼担		
担当学類	社会工学類 専任 地球規模課題学位プログラム 兼担		
研究分野	環境心理学、環境配慮行動、環境意思決定、持続可能な消費		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市環境評価論／都市計画演習／都市計画入門／地球規模課題基礎演習
大学院 Environmental Psychology／Environmental Field Appraisal

◆ 指導学生数：

社会工学類 4名
地球規模課題学位プログラム (学類) 1名
社会工学学位プログラム博士前期課程 6名
社会工学学位プログラム博士後期課程 2名
環境科学学位プログラム博士前期課程 6名
国際連携持続環境科学専攻博士前期課程 1名
持続環境学学位プログラム博士後期課程 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 (基盤 C) 「気候変動緩和行動に対する心理的障壁軽減方策のための日中比較実験研究」 (代表)

◆ 著書・論文等：

Kanada, M., Norman, P., Kaida, N., & Carver, S. (2022). Linking environmental knowledge, attitude, and behavior with place: a case study for strategic environmental education planning in Saint Lucia. *Environmental Education Research*, 29(7), 929-950.

杉田真緒・甲斐田直子 (2022). 環境問題を意識し始めた過去のきっかけと現在の環境配慮行動の関係, *環境情報科学論文集*, 36, 197-202.

糸井風音・甲斐田直子・岩本浩二・Azrina Sobian・Norhayati Abdullah・水野谷剛 (2022).

路上ポイ捨ての理由と解決方策に関する認識比較分析：日本・マレーシア大学生を対象に，*環境情報科学論文集*, 36, 256-261

Wang, T., Kaida, N., & Kaida, K. (2023). Effects of outdoor artificial light at night on human health and behavior: A literature review. *Environmental Pollution*, 323, 121321.

◆ 学会発表等：

Wang, T., Kaida, N., & Kaida, K. (2022). Associations of outdoor artificial light at night with human health and behaviors: Evidence from questionnaire survey in Tokyo. International Association of People-Environment Studies, July 2022, Lisbon (online).

Liu, X., Kaida, N., & Wang, T. (2022). Climate change mitigation and adaptation behavior as individuals and families: Validation and beyond of the Dragons of Inaction Psychological Barriers (DIPB) scale in Japan and China. International Association of People-Environment Studies, July 2022, Lisbon (online).

Itoi, K., Kaida, N., Iwamoto, K., & Sobian, A. (2022). Why do we throw away trash on the street?: Perceptions of the reasons and ideas for solutions among Malaysian university students. International Association of People-Environment Studies, July 2022, Lisbon (online).

唐津遼太郎・甲斐田直子・甲斐田幸佐 (2022). 河川の活動性・軽明性印象は水害における共助防災行動を促す，環境科学会 2022 年会，オンライン，2022 年 9 月。

糸井風音・甲斐田直子・岩本浩二・Azrina Sobian・Norhayati Abdullah・水野谷剛 (2022). 路上ポイ捨ての理由と解決方策に関する認識比較分析：日本・マレーシア大学生を対象に，2022 年度環境情報科学研究発表大会，オンライン，2022 年 11 月。

杉田真緒・甲斐田直子 (2022). 環境問題を意識し始めた過去のきっかけと現在の環境配慮行動の関係，2022 年度環境情報科学研究発表大会，オンライン，2022 年 11 月。

川又豪士・長谷川美紅・甲斐田直子 (2023). 容器包装プラスチック分別の社会的受容性：住民の納得感に着目して，日本環境心理学会第 16 回大会，オンライン，2023 年 3 月。

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

マレーシア日本国際工科院 Japanese University Consortium 防災小委員会事務局
筑波大学マレーシアオフィス運営委員会委員
システム情報系長特別補佐

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類：卒業生連絡委員会、運営委員会

社会工学（院）：運営委員会

環境科学（院）：SUSTEP 英語教育プログラム委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

茨城県環境審議会委員（廃棄物処理計画策定小委員会副委員長）

神栖市廃棄物減量等推進審議会

氏名	佐野 幸恵	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：数学リテラシー1、プログラミング入門A、プログラミング入門B、プログラミング入門、プログラミング実習、学問への誘い(社会工学類担当分)
 - 大学院：社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数：合計 9名
 - 社会工学類 2人
 - 社会工学学位P (前期) 4人・サービス工学学位P (前期) 2人
 - 社会工学学位P (後期) 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究「多層ネットワークを用いたワクチン忌避に対する実証的研究」(代表)
 - 科学研究費 基盤研究(B)「学際的エビデンスに基づく超高齢社会のモビリティ支援とアクティブ・エイジングの推進」(分担)
 - 科学研究費 基盤研究(B)「アカウントティング・インフォマティクス (会計情報科学) の基盤研究」(分担)
 - 科学研究費 基盤研究(C)「勤労世代における風疹ワクチン接種の決定要因に関する研究」(分担)
 - 株式会社野村総合研究所「Web 空間上の集合的感情の可視化に関する研究」(共同研究)
- ◆ 著書・論文等：
 1. N. Igarashi, Y. Okada, H. Sayama, and Y. Sano,
 “A two-phase model of collective memory decay with a dynamical switching point,”
Scientific Reports, vol.12, article number 21484 (2022). [査読あり論文]
 2. M. Takeuchi, S. Morishita, and Y. Sano,
 “Music roles affect the selection of consumption means: A questionnaire survey of
 people’s expectations for music and exploratory factor analysis,” *The Review of
 Socionetwork Strategies* vol. 16, pp. 453–464 (2022). [査読あり論文]

3. K. Kusumegi and Y. Sano,
“Dataset of identified scholars mentioned in acknowledgement statements,”
Scientific Data, vol.9, article number 461 (2022). [査読あり論文]
4. 小田垣 孝, 佐野 幸恵, 山崎 義弘, 山本 健,
“社会物理学ーモデルでひもとく社会の構造とダイナミクスー,” (共立出版 2022).
執筆担当：第6章 社会における伝播現象, 173 頁～224 頁

◆ 学会発表等：*招待講演のみ

1. 佐野 幸恵,
“mathematical model of collective memory decay with a dynamical switching point,”
滋賀大学経済経営研究所 先端研究セミナー, オンライン, 2022 年 6 月 23 日
2. Y. Sano,
“Collective memory decay with a dynamical switching point,”
Socioeconomic Network Workshops and Network Science Workshop 2022,
オンライン, 2022 年 8 月 1,2 日

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・筑波大学主催リケジョサイエンスフォーラム 講師
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・専攻 入試実施委員会 委員
 - ・社工データサイエンス委員会 委員
 - ・情報学群・社会工学類 「プログラミング入門」WG 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本物理学会：
 - ・研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 オブザーバ
- ◆ その他
 - ・日本学術会議 第二部生命科学 ジェンダー・ダイバーシティ分科会
学協会における男女共同参画のあり方に関する検討小委員会 委員

- ・独立行政法人日本学術振興会 男女共同参画推進アドバイザー
- ・茨城県南生涯学習センター 運営協議会 委員
- ・つくば市空き家対策協議会 委員
- ・茨城県 大学等地域連携委員会 委員

氏名	高野 祐一	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	数理最適化 金融工学 機械学習		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 会計と経営／ファイナンス／経営と機械学習／問題発見と解決
 - 大学院 資産評価論／技術経営
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 7人
 - 社会工学学位プログラム (博士前期課程) 7人
 - 社会工学学位プログラム (博士後期課程) 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費 基盤研究 (C) 「混合整数最適化による次元縮約法の最良スパース推定」 (代表)
 2. 科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実応用に向けた説得力のある手法開発」 (分担)
 3. 科学研究費 基盤研究 (C) 「プロジェクトの見積り戦略と遂行体制・契約方式の研究」 (分担)
 4. 科学研究費 挑戦的研究 (開拓) 「走行税課金による道路インフラ維持管理－EV 化と車両認証のデジタル時代を迎えて－」 (分担)
 5. 科学研究費 基盤研究 (B) 「ロバストなデータ解析のための最適化モデリングの深化」 (分担)
 6. 科学研究費 基盤研究 (B) 「錐最適化における半正定値錐の多面錐近似の理論の構築とその応用」 (分担)
 7. 共同研究 (日産自動車 株式会社) 「タイヤの性能指標の予測モデルに関する研究」 (代表)
 8. 共同研究 (株式会社 ルリアン) 「相続工学に関する共同研究」 (分担)
 9. 共同研究 (株式会社 メルカリ) 「クーポン配信ロジックの精度向上に関する研究」 (代表)
- ◆ 著書・論文等：

1. Y. Yoshida and Y. Takano: Linear control policies for online vehicle relocation in shared mobility systems. *Expert Systems with Applications*, 210 (2022), 118417.
2. 岩永二郎, 西村直樹, 鮎川矩義, 高野祐一: 出産前後の情報検索の分析: 数理最適化による検索日の確率分布推定. *人工知能学会論文誌*, 37 (2022), D-L74.
3. N. Ishii, Y. Takano, and M. Muraki: A design method of the joint venture formation in EPC projects. *Intelligent Engineering and Management for Industry 4.0* (2022), 137--146.

◆ 学会発表等:

なし

◆ その他:

1. 高野祐一, 鮎川矩義, 川上雄大, 奈良岡勇, 松本拓見, 安元優太, 朝倉希美, 椎名萌, 守屋恵瑠萌: 令和4年度 データ解析コンペティション 技能賞. 日本オペレーションズ・リサーチ学会「データドリブンマーケティング」研究部会, 2023年2月25日.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

1. 人工知能科学センター 広報委員長
2. 全学学群教職課程委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

1. 社会工学類 カリキュラム委員
2. 社会工学/サービス工学学位プログラム 広報委員
3. 社会工学類 教学マネジメント・FD 委員会
4. 社会工学 データサイエンス委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

1. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 数理計画 (RAMP) 研究部会 幹事
2. 日本オペレーションズ・リサーチ学会 機関誌編集委員

氏名	フンドック トゥアン	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率論, 応用確率過程, システムのモデル化・性能評価		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

応用確率論, 社会工学演習, 社会と最適化, 情報ネットワーク, 社会工学のための数学, 数理工学モデル化演習

◆ 指導学生数：

社会工学類 5人

社会工学専攻 5人 (博士後期課程 2名, 修士課程 3名)

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

2021年4月～2024年3月： 処研究課題番号：21K11765 日本学術振興会/科研費 基盤研究(C), 研究課題「理能力可変型待ち行列モデルの理論的発展と大規模省エネデータセンターへの応用」代表

◆ 著書・論文等：

※査読付学術雑誌掲載論文、著書（専門書）、解説論文・総説論文などの実績
編集論文誌特集号・編著書

1. Phung-Duc, T., Ed., Special Issue of *Mathematics* on Queue and Stochastic Models for Operations Research II, 2023年3月完了.

査読付き論文 (学術雑誌掲載論文, 国際会議論文, 専門書の章)

1. Q. H. Nguyen and T. Phung-Duc, “A Two-Population Game in Observable Double-Ended Queueing Systems,” *Operations Research Letters*, Vol. 50, No. 4, pp. 407–414, 2022. 査読有り
2. Q. H. Nguyen, and T. Phung-Duc, “Supply-Demand Equilibria and Multivariate Optimization of Social Welfare in Double-Ended Queueing Systems,” *Computers & Industrial Engineering*, Vol. 170, Article no. 108306, 2022. 査読有り
3. E. Morozov, S. Rogozin, Q. H. Nguyen and T. Phung-Duc, “Modified Erlang Loss

- System for Cognitive Wireless Networks,” *Mathematics*, Vol. 10, No. 12, Article no. 2101, 2022. 査読有り
4. A. Nakamura, T. Phung-Duc and H. Ando, “A Stochastic Analysis and Price Mechanism of Car/Ride-Share System Considering Road Congestion,” *Queueing Models and Service Management*, Vol. 5, No. 2, pp. 1–27, 2022. 査読有り
 5. Q. H. Nguyen and T. Phung-Duc, “Performance Analysis and Nash Equilibria in a Taxi-Passenger System with Two Types of Passenger,” *SN Computer Science*, Vol. 4, Article no. 73, 2023. 査読有り
 6. K. Abe and T. Phung-Duc, “Diffusion limit of a modified Erlang-B system with sensing time of secondary users,” *Annals of Operations Research*, Vol. 331, No. 2, pp. 985–1006, 2023. 査読有り
 7. Y. Ren, T. Phung-Duc, J. C. Chen and F. Y. Li, “Enabling Dynamic Autoscaling for NFV in a Non-standalone 5G Virtual EPC: Design and Analysis,” *IEEE Transactions on Vehicular Technology*, Vol. 72, No. 6, pp. 7743–7756, 2023. 査読有り
 8. C.-Y. Hsieh, T. Phung-Duc, Y. Ren and J.-C. Chen, “Design and Analysis of Dynamic Block-setup Reservation Algorithm for 5G Network Slicing,” *IEEE Transactions on Mobile Computing*, Vol. 22, No. 9, pp. 5140–5154, 2023. 査読有り
 9. Q. H. Nguyen and T. Phung-Duc, “To wait or not to wait: Strategic behaviors in an observable batch-service queueing system,” *Operations Research Letters*, Vol. 50, No. 3, pp. 343–346, 2022. 査読有り
 10. Q. H. Nguyen and T. Phung-Duc, “Strategic customer behavior and optimal policies in a passenger-taxi double-ended queueing system with multiple access points and non-zero matching times,” *Queueing Systems: Theory and Applications*, Vol. 102, Nos. 3-4, pp. 481–508, 2022. 査読有り
 11. A. Nazarov, T. Phung-Duc, S. Paul and O. Lizura, “Diffusion Limit for Single-Server Retrial Queues with Renewal Input and Outgoing Calls,” *Mathematics*, Vol. 10, No. 6, Article no. 948, 2022. 査読有り
 12. Q. H. Nguyen and T. Phung-Duc (2022), “M/M/c/Setup Queues: Conditional Mean Waiting Times and a Loop Algorithm to Derive Customer Equilibrium Threshold Strategy,” In: Gilly, G and Thomas, N. (eds), *Computer Performance Engineering*, Lecture Notes in Computer Science LNCS 13659, pp. 86–99, 2023, Springer, Cham. 査読有り
 13. A. Nazarov, S. Paul, T. Phung-Duc and M. Morozova, “Analysis of Tandem Retrial Queue with Common Orbit and MMPP Incoming Flow,” In: Vishnevskiy, V.M., Samouylov, K.E., Kozyrev, D.V. (eds) *Distributed Computer and Communication*

Networks: Control, Computation, Communications. DCCN 2022. Lecture Notes in Computer Science, LNCS 13766, pp. 270--283, 2023, Springer, Cham. 査読有り

14. A. Nazarov, T. Phung-Duc, S. Paul, and O. Lizura, "Asymptotic-diffusion analysis of the MMPP/M/1 retrial queue with different types of calls," Proceedings of 25th International Conference on Distributed Computer and Communication Networks: Control, Computation, Communications (DCCN 2022), pp. 181--187, Moscow, Russia, 26-30 September 2022 (in Russian).

査読有り

15. A. Nazarov, S. Paul, T. Phung-Duc, and M. Morozova, "Asymptotic analysis of a tandem retrial queue with two orbits," Proceedings of ITMM' 2022, 2022 (In Russian). 査読有り

書籍の章 (招待有)

1. M. Yajima and T. Phung-Duc, "Queues with Variable Service Speeds: Exact Results and Scaling Limits," The Palgrave Handbook of Operations Research (eds. Said Salhi and John Boylan), pp. 675-694, Springer, 2022. 招待

◆ 国際学会発表

1. T. Phung-Duc, "Queues with Setup Time: Exact Solutions and Scaling Limits," The Second Bellingham Symposium on Modeling and Data Analytics (BSOMADA), July 27-28, 2022, Online, Bellingham, USA. 招待
2. Q. H. Nguyen, and T. Phung-Duc, "M/M/c/Setup Queues: Conditional Mean Waiting Times and a Loop Algorithm to Derive Customer Equilibrium Threshold Strategy," Proceedings of the 18th Performance Engineering Workshop (PEW 2022), pp. 52--65, Santa Pola, Alicante (Spain), September 21-23, 2022. 査読有り
3. A. Nazarov, S. Paul, T. Phung-Duc and M. Morozova, "Analysis of Tandem Retrial Queue with Common Orbit and MMPP Incoming Flow," Proceedings of 25th International Conference on Distributed Computer and Communication Networks: Control, Computation, Communications (DCCN 2022), pp. 255--261, Moscow, Russia, 26-30 September 2022. 査読有り

◆ 国内学会発表等：

1. 小日向将人, Tuan Phung-Duc, 混雑度に依存するパラメータ変化を考慮した待ち行列モデルの分析と交通流への応用, 第39回(2022年度)待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集, pp. 102--111, 早稲田大学小野記念講堂&オンライン, 2023年1月18-20日.
2. 中村彩音, Tuan Phung-Duc, Heavy traffic analysis for infinite server batch

service queue with infinite support batch size: A moment approach, 第39回 (2022年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集, pp. 72--81, 早稲田大学小野記念講堂&オンライン, 2023年1月18-20日.

3. Hung Q. Nguyen, Tuan Phung-Duc, The rational outcome of a two-population game in a matching queue, 第39回 (2022年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」, 報文集 pp. 1-10, 早稲田大学小野記念講堂&オンライン, 2023年1月18-20日.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 日越大学公共政策プログラム運営委員会委員 (全学)
 - 留学生委員 (研究群)
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - 学生・留学生相談委員長
 - 大学院入試委員
 - 2年学生担任

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

学術論文誌の編集員

1. Associate Editor for Queueing Models and Service Management (QMSM) from May 2017～現在
2. Associate Editor for Journal of the Operations Research Society of Japan from June 2019～現在
3. Editor for MDPI Mathematics from March 2021～現在

国際会議のプログラム委員 (Technical Program Committee)

1. Technical Programme Committee of 18th European Performance Engineering Workshop (EPEW2022), September, 21-23, 2022, Santa Pola, Alicante, Spain.
2. Technical Programme Committee of EAI VALUETOOLS 2022 - 15th EAI International Conference on Performance Evaluation Methodologies and Tools, November 16-18, 2022.
3. Technical Programme Committee of The Thirteenth International Conference on Performance, Safety and Robustness in Complex Systems and Applications April 24, 2023 to April 28, 2023 - Venice, Italy

国内学会・研究集会の委員

1. 第39回 (2022年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

氏名	八森 正泰	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジ的組合せ論		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 微積分2 (総合学域群) / 微積分3 / 離散数学 / 囲碁で培う思考力 (全学)
大学院 離散数理
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 6人
社会工学専攻 (前期課程) 5人
社会工学専攻 (後期課程) 2人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究 (B) 「大規模データ時代のネットワーク最適化に対する実応用に向けた説明力のある手法開発」 (分担、代表：繁野麻衣子)
基盤研究 (B) 「錐最適化における半正定値錐の多面錐近似の理論の構築とその応用」 (分担、代表：吉瀬章子)
基盤研究 (C) 「Nonpure 複体の分割構造を軸とした単体的複体の組合せ構造の探求」 (代表)
- ◆ 著書・論文等：
Masahiro Hachimori, Akihiro Higashitani, Yumi Yamada, The root distributions of Ehrhart polynomials of free sums of reflexive polytopes, The Electronic Journal of Combinatorics 29(3) (2022) #P3.26
- ◆ 学会発表等：
八森正泰, 「組合せ論における単体的複体と分割可能性」, Japanese Conference on Combinatorics and its Applications 2022 (離散数学とその応用研究集会 2022), 成蹊大学, 2022年8月17-19日 (招待講演)
中本敦浩, 小関健太, 八森正泰, 「射影空間の四角形分割の染色数」, 2022年度応用数合同研究集会, 龍谷大学, 2022年12月15-17日
山田祐見, 東谷章弘, 八森正泰, 「格子凸多面体の free sum の Ehrhart 多項式の根の分布」, 2023年度日本数学会年会, 中央大学, 2023年3月15-18日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学計算機システム仕様策定委員
全学計算機システム仕様策定・導入 WG
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 コンピュータ委員，運営委員，2年次クラス担任
大学院 コンピュータ委員、論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
Graphs and Combinatorics 誌 Editorial Board
組合せ数学セミナー（COMA ゼミ）幹事
JCCA メーリングリスト&ホームページ管理
日本数学会応用数学分科会内の委員

氏名	原田 信行	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
学類 統計学／金融論
大学院 企業評価論
- ◆ 指導学生数 :
社会工学類 4人
社会工学学位プログラム 2人

2. 研究

3. 学内運営

- ◆ 学位プログラム等組織の業務への貢献 (委員会等) :
社会工学学位プログラム 教学マネジメント委員会委員
社会工学類 卒業論文梗概集編集委員会委員長
社会工学類 教学マネジメント委員会委員
社会工学類 卒業生連絡委員会委員
社会工学類 4年生クラス担任

氏名	藤井 さやか	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	サービス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任 BPGI 講義担当		
研究分野	都市計画, 住環境整備, まちづくり法制		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

- 学類 土地利用計画／住環境計画実習／現代まちづくり論／都市計画事例講義／Instruction for the Seminars on Global Issues A-II and the Practical Training on Global Issues A-II
- 大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップ I・II／社会工学ファシリテーター育成プログラム I・II (国際交流ワークショップ A・B／まちづくりワークショップファシリテーター研修／つくば市 PJ 型共同研究実習)

◆ 指導学生数：

- 社会工学類 3人
- 社会工学学位プログラム博士前期 9人、博士後期 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 令和 4 年度科学研究費・挑戦的研究 (萌芽) (代表), 「スペースシェアリングを活用した高経年戸建住宅地再生・継承モデルの構築」(22K18839)
- 令和 4 年度科学研究費・基盤研究 (B) (代表), 「社会的包摂プログラムを組み込んだ外国人集住地区再生手法の実態と日本への適用」(18H01601)
- 令和 4 年度科学研究費・基盤研究 (B) (分担) (代表平井太郎), 「超高層住宅の「二重の老い」の乗り越えを目指す学際的・国際的研究」(20H01562)
- 令和 4 年度科学研究費・基盤研究 (C) (分担) (代表大澤昭彦), 「景観・市街地環境の保全・形成手法としての絶対高さ制限の評価に関する研究」(18K04484)
- 2022 年度公益社団法人日本都市計画学会・研究交流事業「空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」に関する研究会」
- 2022 年度学術指導・株式会社 WaCreation (代表), 「社会的孤独の解消モデル事例のプロセス分析及び検証手法の検討」
- 2021-2022 年度学術指導・株式会社一条工務店 (代表), 「つくば市みどりの分譲地

のまちづくり提案について」

- 2022 年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト（代表）、「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」

◆ 著書・論文等：

- Jooho Park, Sayaka Fujii: Living Lab Participants' Knowledge Change about Inclusive Smart Cities: An Urban Living Lab in Seongdaegol, Seoul, South Korea, *Smart Cities* 2022, 5(4), pp.1376-1388, 2022. (査読有)
- 中藪大河, 藤井さやか: 人材育成事業の展開を通じた個人の変化及び地域活動の拡大に関する研究, *都市計画論文集*, 57-3, pp.705-712, 2022. (査読有)
- 稲見一貴, 江本珠理, 藤井さやか: 計画的戸建住宅地におけるスペースシェアリングの展開可能性と受け入れ条件の検討, *都市計画論文集*, 57-3, pp.744-751, 2022. (査読有)
- 板橋奈央, 藤井さやか, 島田由美子: 地方都市における市民提案型まちづくり活動助成制度の市民活動育成機能に関する研究, *都市計画論文集*, 57-3, pp.1347-1354, 2022. (査読有)
- 王爽, 藤井さやか: 公的住宅団地における高学歴技術職の中国籍住民の居住実態と地域との関わりに関する研究—首都圏 2 団地の住民インタビュー調査から—, *生活学論叢*, Vol.40, pp.54-67, 2022. (査読有)
- 藤井さやか: 1980 年以降、40 年の「つくば」の変化と現状, *建築ジャーナル*, 1334, pp.15-18, 2022-09.
- 佐藤耀, 藤井さやか: 大家によるテナント・居住者のコミュニティ形成を通じたまちづくりの可能性に関する研究—兵庫県 INNO TWON を対象に—, *日本生活学会第 49 回研究発表梗概集*, 4-04, pp.78-79, 2022-06.
- 中藪大河, 藤井さやか: 人材育成事業の展開を通じた個人の変化及び地域活動の拡大に関する研究—千葉県流山市の（株）WaCreation が行う machimin 事業を対象として—, *日本生活学会第 49 回研究発表梗概集*, 4-04, pp.80-81, 2022-06.

◆ 学会発表等：

- Shun Ozawa, Sayaka FUJII: A study of small municipalities' support for citizen-operated communication sites for elderlies in Japan, 5th World Planning Schools Congress and 16th Asian Planning Schools Association Congress, 2022-08-31.
- Jooho PARK, Sayaka FUJII: Investigation of Living Lab Participants' Knowledge Change for Inclusive Smart City: The Case Study of Urban Living Lab in Seongdaegol, Seoul, South Korea, *International Conference of Asian-Pacific Planning Societies* 2022, 2022-08-19. (抄録査読有)

◆ その他：

- 藤井さやか：1 部第 5 章カナダ・トロント市における社会的包摂を組み込んだ団地再生事業（pp.101-119）・2 部補論 1 日本の外国人集住団地への示唆（pp.179-185），日本都市センター『グローバル化する地域社会におけるまちづくりに関する研究会』報告書（204p），2023.
- パネリスト，「ひのさとのセカンドステージ団地再生から学ぶ これからの郊外住宅団地のあり方」，2022 年度都市住宅学会大会メインシンポジウム『郊外居住の新たな価値 ー日の里団地再生のセカンドステージ』，2022 年 11 月 19 日，福岡大学中央図書館多目的ホール.
- 趣旨説明・コーディネーター，「子育て期の女性が社会とつながる場」，日本都市計画学会研究交流事業研究交流分科会『空き空間を活用した社会的孤立を解消・予防する「つながる場」に関する研究会』，2023 年 3 月 10 日，co-en.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- 全学：学生宿舎リニューアル検討委員会委員／未来社会デザイン棟（仮称）の基本計画策定に向けた WG 委員／欧州地域アドバイザーボード構成員／「総合科目」専門部会／教育図書委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 社会工学・サービス工学学位プログラム：入試実施委員会委員／カリキュラム委員会委員
- 社会工学類：建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 日本都市計画学会学術委員会委員
- 日本建築学会住宅地計画小委員会幹事
- 日本不動産学会事業企画委員会委員
- 土木学会景観・デザイン委員会委員

◆ 講師等：

- 話題提供，「遠隔就労が拓く新たなまちと暮らし」，Innovation Meetup『遠隔就労が拓くインクルーシブな社会参画』，2023 年 3 月 28 日，Inspired.Lab.
- 座談会コーディネーター，「新たな時代を迎えたつくばセンター地区の今後の展望ーリアル空間を支えるデジタル技術」，2022 年 12 月 7 日，つくば都市交通センター.
- 講演，「景観まちづくりをまちの魅力発信と出会いの場へ」，北斎通りまちづくりの会景観まちづくり意見交換会，2022 年 11 月 26 日，すみだ北斎美術館.
- コメンテーター，「つくば市都市計画市民ワークショップ」，2022 年 10 月 22・29・

30日、豊里交流センター・荖崎交流センター・つくば市役所。

- 話題提供、「筑波研究学園都市の開発経緯」、平砂アートムーヴメント (HAM) , 2022年6月25日, 松見公園.
- 話題提供、「co-en リニューアル裏話を語ろう!」、センタービルで〇〇〇〇 vol.0, 2022年6月18日, co-en.
- 話題提供、「筑波研究学園都市の公務員宿舎廃止地区の規制誘導と公園一体型再整備の現状」、比較住宅都市研究会, 2022年6月1日, オンライン開催.

◆ 学外委員：

- 内閣府総合特別区域評価・調査検討会委員／内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員
- 国土交通省国土政策局地域振興課地域づくり表彰審査会委員／国土技術政策総合研究所評価委員会第二部会委員／国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員／国土交通省総合技術開発プロジェクト「成熟社会に対応した郊外住宅市街地の再生技術の開発」技術開発検討会委員
- 東京都開発審査会委員／茨城県都市計画審議会委員／茨城県開発審査会委員／茨城県島名・福田坪特定土地区画整理審議会／茨城県上河原崎・中西特定土地区画整理審議会／千葉県県土整備公共事業評価審議会委員／柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会委員
- 板橋区都市計画審議会委員／板橋区老朽建築物等対策協議会会長／アーバンデザインセンター高島平専門アドバイザー／墨田区都市計画審議会委員／墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会専門委員／墨田区建築審査会委員／大田区まちづくり認定審査会副会長／目黒区都市計画審議会委員／目黒区都市計画審議会都市計画 MP 部会委員／目黒区景観審議会委員／文京区住宅政策審議会委員／文京区住宅政策審議会小委員会委員
- つくば市第3次都市計画マスタープラン・第2次立地適正化画策委員会委員／つくば市大規模事業評価委員会委員／つくば市公有地利活用方策検討会常任委員／つくば市高エネ研南側未利用地の売却に係る公募型プロポーザル候補者選定委員会委員／つくば市都市計画課まちづくり専門家アドバイザー／つくば市スマートシティ協議会インフラ・都市デザイン分科会つくば中心市街地スマートプランニング研究体メンバー
- 土浦市公共施設再編・再配置計画策定委員会副会長／守谷市空家等対策協議会委員会会長／常総市都市計画マスタープラン策定委員会委員／つくばみらい市総合計画審議会委員／柏市紛争調停委員会委員／八潮市公共施設マネジメント推進委員会副委員長
- 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会住宅・都市分科会委員
- 公益社団法人 UWC 日本協会派遣奨学生選考委員

氏名	松原 康介	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム（兼担）		
担当学類	国際総合学類 社会工学類（兼担）		
研究分野	建築史、都市計画史、国際協力		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：都市文化共生計画/都市計画の思想史/
大学院：都市形成史/
- ◆ 指導学生数：
国際総合学類 3/社会工学類 1/社会工学学位 P（前期）7/社会工学学位 P（後期）3

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 新学術領域研究（計画研究）「西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究」（代表）
 - 基盤研究（C）中東・北アフリカ地域におけるヘレニズム基盤の継承に関する都市文献史的研究（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - ロス・バーンズ（著）松原康介（編訳）『ダマスクス 都市の物語』中央公論美術出版、2023.3
 - ロス・バーンズ（著）松原康介（編訳）『アレppo 都市の物語』中央公論美術出版、2023.3
 - Hu, Jiahui and Matsubara, Kosuke, Development of French inspired urban architecture with the construction of the Yunnan-Vietnam Railway: A case study of Kunming City based on literature survey, *Journal of Asian Architecture and Building Engineering*, 22(4), pp.1915-1950, 2022年11月.
 - Matsubara, Kosuke, An examination of the three districts in Algiers by Fernand Pouillon as Moorish architecture: Research on dwelling practice around the “bidonville (shantytown)” project in Algiers during the Late Colonial Period, Part 2, *JAPAN*

ARCHITECTURAL REVIEW, 5(4), pp.458-473 2022 年 10 月.

その他：

○松原康介「ダマスクス（シリア）」都市計画, 72-2(361), p.90, 2023 年 3 月

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
地中海・北アフリカ研究センター 兼任准教授
西アジア文明研究センター 兼任准教授
西アジア文明研究センター 運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
システム情報研究群広報委員会委員長（社工選出）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
日本建築学会 建築計画委員会・国際化支援 WG
JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering), Editorial Member
(Urban Planning)
日本建築学会 図書委員会・文献抄録小委員会・第 5 部会（都市計画）委員
日本都市計画学会 国際委員
日仏東洋学会 広報担当幹事

氏名	山本 幸子	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担		
学位プログラム (博士前期課程)	環境科学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	建築計画, 地域計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 設計演習 I / 住環境計画概論 / 都市計画入門

大学院 住環境計画論 / 社会工学ワークショップ I・II / 社会工学ファシリテーター育成プログラム I・II / 社会工学ファシリテーター育成プレプログラム I・II・III・IV / Environmental Analysis and Planning / Introduction to Environmental Sciences / Exercises in Environmental Sciences

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人

社会工学専攻 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 1) 科学研究費基盤研究 C, 代表者：山本幸子, 農村移住者の宿泊滞在施設運営と地域交流活動による新たな都市農村交流の展開可能性
- 2) 石岡市受託研究, 代表者：藤川昌樹, 研究題目：石岡市看板建築及び里山景観等調査研究
- 3) かすみがうら市受託研究, 代表者：加藤研, 研究題目：持続可能な古民家再生研究業務
- 4) 関彰商事株式会社共同研究, 代表者：大澤義明, 研究題目：茨城版 SDGs を推進する産学研究
- 5) 株式会社ルリアン共同研究, 代表者：大澤義明, 研究題目：相続工学に関する共同研究

◆ 著書・論文等：

◆ 学会発表等：

- 1) 吉岡誠生、山本幸子：市町村合併により生じた旧市街地の振興における行政支援の手法について—つくば市周辺市街地振興における地域運営組織と外部人材との協働支援を事例として—, 都市計画報告集, 21 巻 2 号, pp.153-159, 2022.12

- 2) 吉岡誠生、山本幸子：多様な主体が連携する「新しい内発的発展」を支える地方自治体の取り組みについて—つくば市周辺市街地振興を事例として—，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1055-1056，2022.7
- 3) 古屋昂、山本幸子：関係人口の居住地と訪問先との距離が地域とのかかわり方に与える影響—茨城県を対象として—，日本建築学会大会学術講演梗概集， pp.69-70，2022.7

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 1) 社会工学類カリキュラム委員
 - 2) 社会工学専攻施設委員
 - 3) 社会工学類建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 1) 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
 - 2) 石岡市協働のまちづくり推進委員会
 - 3) 茨城県古民家活用合同研究会座長
 - 4) 石岡市景観調査委員会委員
 - 5) 土浦市空家等対策協議会委員長
 - 6) 石岡市空家等対策協議会委員
 - 7) 石岡市都市計画審議会委員
 - 8) つくば市ホテル等建築審議会委員
 - 9) 日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議支援事業部会委員
 - 10) 日本建築学会農村計画本委員会委員
 - 11) 日本建築学会住宅系研究報告会運営代表幹事

氏名	和田 健太郎	職名	准教授
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	交通工学, 土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通計画, 都市計画演習, 都市数理, 線形代数3

大学院 モビリティイノベーションの社会応用

◆ 指導学生数：

社会工学類 3名

社会工学学位プログラム 4名

サービス工学学位プログラム 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会 科学研究費助成事業

- ・ 高速道路の単路部ボトルネック現象に対する交通流理論の構築と制御手法の開発, 基盤研究 (C) (研究代表)
- ・ 走行税課金による道路インフラ維持管理—EV化と車両認証のデジタル時代を迎えて—, 挑戦的研究 (開拓) (分担, 代表者: 大澤義明)
- ・ MaaS+CV 時代の次世代交通システムに向けたインフラと制度の設計, 基盤研究 (A) (分担, 代表者: 井料隆雅)
- ・ バイオミメティックスに学ぶスマートな都市退化マネジメント, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 谷口守)
- ・ 交通渋滞マネジメントのためのビリーフデザインアプローチ, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 福田大輔)
- ・ 交通・物流システム効率化のための市場型マッチング・システムの設計・評価法構築, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 赤松隆)
- ・ 限定合理的個人を仮定した大規模社会システムの動的制度設計, 基盤研究 (B) (分担, 代表者: 澤亮治)

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文

- **和田健太郎**, 邢健, 大口敬：高速道路サグ・トンネル部における渋滞発生後捌け交通量の低下メカニズム, 交通工学論文集, Vol.8, No.3, pp.1-10, 2022.
- Toru Seo, **Kentaro Wada** and Daisuke Fukuda: Fundamental diagram of urban rail transit considering train-passenger interaction, Transportation, Vol.50, pp.1399–1424, 2023. (Note: Available online April 22, 2022)
- 板橋昂汰, **和田健太郎**：需要分布を内生化したタンデムボトルネックにおける出発時刻選択均衡, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.77, No.5, pp.I 1045-I 1055, 2022.
- 岸川知樹, **和田健太郎**：高速な連結・解結を前提とした新たな高頻度鉄道運行スキーム, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), Vol.77, No.5, pp.I 1109-I 1119, 2022.
- Haoran Fu, Takashi Akamatsu, Koki Satsukawa and **Kentaro Wada**: Dynamic traffic assignment in a corridor network: Optimum versus equilibrium, Transportation Research Part B: Methodological, Vol.161, pp.218–246, 2022.
- 甲斐慎一郎, **和田健太郎**, 堀口良太, 邢健：連続体交通流理論に基づく国内複数のサグ・トンネルにおける交通容量低下の実証分析, 交通工学論文集, Vol.9, No.2, pp.A_280-A_287, 2023.
- **和田健太郎**, 金崎圭吾, 西田匡志, 平井章一：音声による速度回復情報提供の交通性能改善メカニズムの実証分析, 交通工学論文集, Vol.9, No.2, pp.A_326-A_334, 2023.
- Jiahua Zhang, **Kentaro Wada** and Takashi Oguchi: Morning commute in congested urban rail transit system: A macroscopic model for equilibrium distribution of passenger arrivals, Transportmetrica B: Transport Dynamics, Vol.11, No.1, 1256–1280, 2023.

◆ 学会発表等：

国際学会

- Koki Satsukawa, **Kentaro Wada**, David Watling: Dynamic system optimal assignment with atomic users: Convergence and stability, Proceedings of the 24th International Symposium on Transportation and Traffic Theory, 2022.
- Rikuto Shigemi, Hiroyasu Ando, **Kentaro Wada** and Risa Mukai: Predicting traffic breakdown in expressways using linear combination of vehicle detector data, The 2022 International Symposium on Nonlinear Theory and Its Applications, A2L-D-01, 2022.
- Tomoki Kishikawa and **Kentaro Wada**: Novel railway operation scheme of providing express/local service with a single train, The 26th International Conference of Hong Kong Society for Transportation Studies, pp.401–408, 2022.

国内学会

- ・ 和田健太郎, 金崎圭吾, 西田匡志, 平井章一: 音声による速度回復情報提供の交通性能改善メカニズムの実証分析, 交通工学研究発表会論文集, Vol.42, pp.505-512, 2022.
- ・ 甲斐慎一郎, 和田健太郎, 堀口良太, 邢健: 連続体交通流理論に基づく国内複数のサグ・トンネルにおける交通容量低下の実証分析, 交通工学研究発表会論文集, Vol.42, pp.513-517, 2022.
- ・ 板橋昂汰, 和田健太郎: ボトルネック渋滞を内生化した住宅立地モデルの感度分析, 土木計画学研究・講演集, Vol.66, 12-08 (CD-ROM), 2022.
- ・ 周毅愷, 和田健太郎: 市場型混雑管理システム下における自動運転サービス車両の最適拠点配置, 土木計画学研究・講演集, Vol.66, 12-11 (CD-ROM), 2022.
- ・ 岸川知樹, 和田健太郎: 自動運転による高速な分割・併合を活用した新たな多種別列車運行の提案, 第 29 回鉄道技術連合シンポジウム (J-RAIL2022) , pp.268-271, 2022.

◆ その他:

受賞 (指導学生も含む)

- ・ 優秀論文賞, 土木学会論文集 D3・特集号 (土木計画学研究・論文集) Vol.77, No.5, 2022 年 5 月.
- ・ 若手教員奨励賞, 筑波大学, 2022 年 11 月.
- ・ 梅村悠生, 優秀同窓会賞, 筑波大学社工都市計画同窓会, 2023 年 2 月.
- ・ 金崎圭吾, 優秀同窓会賞, 筑波大学社工都市計画同窓会, 2023 年 2 月.
- ・ 板橋昂汰, 茗溪会賞, (一社) 茗溪会, 2023 年 3 月.
- ・ 板橋昂汰, リーダー賞, 筑波大学社会工学学位プログラム, 2023 年 3 月.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

- ・ なし

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

- ・ 社会工学類 入試実施委員
- ・ 社会工学/サービス工学学位プログラム カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動:

- ・ Editorial Board, International Journal of Intelligent Transportation Systems Research
- ・ 委員, 鉄道事業の事業評価に係る勉強会, 運輸総合研究所
- ・ 委員, JSTE シンポジウム運営小委員会, 交通工学研究会

- ・ 委員, 高速道路における交通ビッグデータの活用に関する調査研究会, 高速道路調査会
- ・ 副会長, 筑波山周辺渋滞対策協議会, 茨城県
- ・ 委員, 学術小委員会, 土木計画学研究委員会
- ・ 委員, 今後の交通管制のあり方に関する調査研究に係る検討委員会, UTMS 協会
- ・ 委員, 国道 6 号小美玉道路検討会, 国土交通省関東地方整備局
- ・ 委員, 新規出版企画委員会, 交通工学研究会
- ・ 委員, 首都高の将来料金等研究会, 首都高速道路株式会社
- ・ 委員, 第 20 回 ITS シンポジウム 2022 プログラム委員会, ITS Japan
- ・ 委員, 協調自動運転システムへの情報提供等の在り方に関する検討会, 警察庁
- ・ 委員, 自主研究「平面交差の計画・設計・制御の研究」, 交通工学研究会
- ・ 委員, 道路交通技術必携改訂分科会, 交通工学研究会
- ・ 代表, 自主研究「高速道路単路部の渋滞現象記述理論の実務への応用」, 交通工学研究会
- ・ 委員, 踏切道の安全・円滑化に向けた列車感応信号機に関する調査研究, UTMS 協会

(以上)

氏名	阿武秀和	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学 専攻		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ミクロ経済学、マーケットデザイン		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：ミクロ経済学, 経済学の数理(以上、学類)、ミクロ経済学, ゲーム理論(大学院)
- ◆ 指導学生数：学類1名、大学院修士4名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 若手研究「公平な複数財配分の研究」(研究代表者)
- ◆ 著書・論文等：
Fair priority-completion in assignment problems (joint with Sui Takahashi), *Discussion Paper Series at University of Tsukuba*, 2022 January 31.
Efficient and strategy-proof cardinal rules on a restricted domain, *Discussion Paper Series at University of Tsukuba*, August 21, 2023.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：研究室配属マッチング委員会、学群入試実施委員会

4. 学外の社会貢献

なし

氏名	牛島 光一	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用計量経済学 (開発、教育、健康)		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：統計学／都市経済学／都市数理／都市・地域科学演習
大学院 経済・政策分析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類：5名
社会工学専攻：修士7名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費 基盤研究 (B)「市場統合の経済効果とその経路依存性に関する研究－明治期の鉄道網建設を例として－」(代表)
 2. 科学研究費 基盤研究 (B)「交通と環境に関する新経済地理学的基盤研究」(分担者)
 3. 科学研究費 基盤研究 (C)「都市における環境リスクの軽減の経済効果に関する研究」(分担者)
 4. 挑戦的研究 (萌芽)「衛星画像と機械学習で描くサブサハラ・アフリカの民族優遇と交通インフラ整備の20年」(代表)
 5. JST 戦略的創造研究推進事業 (さきがけ)「反実仮想で測る公的資源配分の依怙臆と非効率」(代表)
- ◆ 学会発表等：
 1. 「衛星画像と機械学習で描く政治的依怙臆」, 第16回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会, 於 四国大学, 2023年3月6日.
 2. 「近代日本における 鉄道建設と市場統合」研究集会, 於 四国大学, 2023年3月6日.
 3. 「衛星画像と機械学習で描く政治的依怙臆」, さきがけ「文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創[社会変革基盤]第1回領域会議, 於 大阪大学, 2023年2月27日.
 4. 「Rural Labor market contraction increases higher education enrollment」, 第36回 応用地域学会 研究発表大会, 於 山梨大学, 2022年12月17日.
 5. 「自然災害による労働市場の縮小が大学進学率を高める」, 日本経済学会 2022年度秋

季大会，於 慶応義塾大学，2022 年 10 月 15 日。

6. 「自然災害による労働市場の縮小が大学進学率を高める」，六甲フォーラム，於 神戸大学，2022 年 6 月 22 日。

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学データサイエンス・ケースバンクプロジェクト委員
 - 論文委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

氏 名	折原 正訓	職 名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム 専任 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	企業金融, 税制		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 計量分析システム演習／金融リスク管理論/経済学の実証
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費若手研究「経済環境激変時における社外取締役の機能」(代表)

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
論文委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
日本証券経済研究所 証券税制研究会 委員

氏名	木下 陽平	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担		
学位プログラム (博士前期課程)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 専任 社会工学学位プログラム 分担 サービス工学学位プログラム 分担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	測地学、地球物理学、リモートセンシング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 線形代数 2, 線形代数 3, 都市環境評価論, 都市計画マスタープラン演習, 都市計画インターンシップ, BPGI A-I

大学院： リスク・レジリエンス工学学位プログラム演習, レジリエント都市計画演習, リスク工学基礎, リスク・レジリエンス工学学位プログラムグループ PBL 演習, 都市リスクマネジメント論, 災害リスク・レジリエンス論

◆ 指導学生数：

リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士前期課程 4名

研究生 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究「GNSS 観測と気象モデリングの融合による先進的 InSAR 大気補正手法の開発」(代表)

科学研究費 特別研究促進費「能登半島北東部において継続する地震活動に関する総合調査」(分担)

◆ 著書・論文等：

Y. Kinoshita, Development of InSAR Neutral Atmospheric Delay Correction Model by Use of GNSS ZTD and Its Horizontal Gradient, *IEEE TGRS*, 60, 2022.

◆ 学会発表等：

- Yohei Kinoshita, Transient small displacement since the end of 2020 at Noto peninsula, Japan, revealed by Sentinel-1 InSAR time series analysis, EGU General Assembly 2022, Online, 25/05/2022

- 松沢啓太, 木下陽平, GNSS 観測を用いた日本での L-band InSAR PWV の推定とその

- 精度評価, JpGU2022, ハイブリッド開催 (幕張メッセ & オンライン) , 25/05/2022
- 伊藤奎政, 木下陽平, Sentinel-1 強度画像を用いた機械学習および深層学習による土砂移動の検出の試み, JpGU2022, ハイブリッド開催 (幕張メッセ & オンライン) , 25/05/2022
 - 下妻康平, 木下陽平, InSAR 時系列解析を用いたメガシティでの地盤沈下による災害リスク評価, JpGU2022, ハイブリッド開催 (幕張メッセ & オンライン) , 25/05/2022
 - Liu Yixuan, 木下陽平, Slow-Moving Landslide Monitoring at Jichang Based on Sentinel-1 Time Series Analysis, JpGU2022, ハイブリッド開催 (幕張メッセ & オンライン) , 25/05/2022
 - 木下陽平, 2020 年末から開始した能登半島での継続的微小地殻変動の Sentinel-1 SAR 時系列解析による検出, JpGU2022, ハイブリッド開催 (幕張メッセ & オンライン) , 26/05/2022
 - 長岡頌悟, 高田陽一郎, 木下陽平, ALOS-2 を用いた地震間地殻変動の検出:悪条件下での電離層擾乱への対応, 日本測地学会第 138 回講演会, ハイブリッド開催 (鹿児島大学 & オンライン) , 06/10/2022
 - 木下陽平, 全球大気再解析 ERA5 と GNSS を用いたハイブリッド InSAR 大気遅延補正モデル開発の試み, 日本測地学会第 138 回講演会, ハイブリッド開催 (鹿児島大学 & オンライン) , 06/10/2022
 - 木下陽平, 能登半島北部で 2020 年末から活発化した地震活動に伴う地殻変動の Sentinel-1 SAR 時系列解析による検出, 日本地震学会 2022 年度秋季大会, 北海道立道民活動センター「かでの 2・7」, 北海道, 25/10/2022
 - 松沢啓太, 木下陽平, InSAR 可降水量のデータ同化が降水再現性に与える影響の評価:令和 2 年 7 月豪雨を対象として, 日本気象学会 2022 年度秋季大会, 北海道大学, 北海道, 26/10/2022
 - 伊藤奎政, 木下陽平, Sentinel-1 強度画像を用いた深層学習による土砂移動検出アルゴリズムの開発, 日本リモートセンシング学会 第 73 回(令和 4 年度秋季)学術講演会, 三重県総合文化センター, 三重, 29/11/2022
 - 木下陽平, 能登半島北東部での地震活発化に伴う地表面変位の Sentinel-1 時系列解析による検出, 2022 年度 東京大学地震研究所共同利用(研究集会:課題番号 2022-W-08)「高頻度 SAR 観測時代の幕開け」, 東京大学地震研究所, 東京, 05/12/2022
 - 下妻康平, 木下陽平, ALOS-2 を用いた中央構造線での地震間変位速度場検出の試み, 2022 年度 東京大学地震研究所共同利用(研究集会:課題番号 2022-W-08)「高頻度 SAR 観測時代の幕開け」, 東京大学地震研究所, 東京, 05/12/2022
 - Liu Yixuan, 木下陽平, PSInSAR による地すべり前の地表面変位と降雨に関する研究, 2022 年度 東京大学地震研究所共同利用(研究集会:課題番号 2022-W-08)「高頻度

SAR 観測時代の幕開け」, 東京大学地震研究所, 東京, 06/12/2022

- 長岡頌悟, 高田陽一郎, 木下陽平, 悪条件下において SSM を適用する際のフィルターについて, 2022年度 東京大学地震研究所共同利用(研究集会:課題番号 2022-W-08) 「高頻度 SAR 観測時代の幕開け」, 東京大学地震研究所, 東京, 06/12/2022
- 木下陽平, 松沢啓太, 衛星測地技術 InSAR の気象学への応用とデータ同化へ向けての取り組み, 気象研究所データ同化談話会, 気象研究所, 茨城, 08/12/2022
- Yohei Kinoshita, Incorporating global atmospheric model products into the InSAR atmospheric delay model based on GNSS observations, AGU Fall Meeting 2022, Chicago&Online, USA, 15/12/2022

-
- ◆ その他:
JAXA 第3回地球観測研究公募レイトプロポーザル 採択 (代表)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
無し
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
社会工学類 広報委員会委員, 4年生クラス担任
リスク・レジリエンス工学学位プログラム 広報委員会委員, カリキュラム委員会委員,
修士課程2年生副担任, 表彰委員会委員, 学務委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動:
学術誌査読: Earth, Planets and Space 1件
Journal of Geodesy 1件
Geospatial-Information Science 1件
Remote Sensing 2件
日本測地学会 評議員
日本測地学会 JpGU プログラム委員
IGARSS 2023 Scientific committee
InSAR 地殻変動研究コミュニティ「PIXEL」 コアメンバー
日本地球惑星科学連合 「SAR」セッション 主コンビーナー
日本リモートセンシング学会 JpGU 小委員会 委員

氏名	黒瀬 雄大	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計、計量経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 データ解析 / プログラミング入門 A / プログラミング入門 B / プログラミング入門 / プログラミング実習

大学院 統計分析 / ファイナンス：理論と実践

◆ 指導学生数：

学類 1名 大学院博士前期課程 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究 「多変量／高次元の潜在変数をもつ時系列モデルの効率的ベイズ推測」(研究代表)

科学研究費 基盤研究(A) 「経済・金融多変量データのベイズモデリングと政策・行動の確率的評価」(研究分担)

◆ 著書・論文等：

Yuta Kurose (2022), “Bayesian GARCH modeling for return and range,” Economics Bulletin, Vol. 42.

◆ 学会発表等：

黒瀬雄大, “Simulation of truncated and unimodal gamma distributions,” 統計学の理論と応用のフロンティア.

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

社会工学類 4年次担任 / 卒業論文梗概集編集委員会 委員 / 入試実施委員会 委員

社会工学域 施設委員会 委員

氏名	Tran Lam Anh Duong	職名	助教
学位プログラム (博士後期課程)	社会工学学位プログラム 専任		
学位プログラム (博士前期課程)	社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：国際金融論/マクロ経済学/計量分析システム演習
 - 大学院前期課程：経済・政策分析

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 公益財団法人ヒロセ国際奨学財団（研究助成）「グローバル・バリュー・チェーンの形成と経済発展：理論と実証」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - Tran L.A.D. and I., Deseatnicov (2023), Technology Level and the Global Value Chain, *Applied Economics*, 55(25), 2928-43

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 日越大学 修士課程公共政策プログラム (ベトナム)：授業 (Macroeconomics for Public Policy)、運営
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：広報委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 国際奨学財団における委員会活動：公益財団法人ジャパンマテリアル国際奨学財団 選考委員 (2019年4月ー現在)
- ◆ 国際会議・シンポジウムのオーガナイザー：The 3rd Vietnam Symposium on International Business 科学委員 (2022年10-11月, Banking University of Ho Chi Minh City, HCMC, Vietnam)
- ◆ 非常勤講師の活動：放送大学東京多摩学習センター：基礎マクロ経済学 (2022年11月)